

令和 2 年度

地域貢献活動報告書



群馬県立県民健康科学大学



群馬県立県民健康科学大学

地域社会と交流を図り、

専門職向け事業

● 県立病院・県内病院連携事業



心臓血管センター

各病院が抱える課題解決に向け組織レベルで展開



がんセンター



精神医療センター



大学



小児医療センター

共通テーマ

- 4病院共通看護職員のキャリア開発の現状と課題
- 共同研究を通じた人材育成と大学への知の還元
- 備品の長期貸出

● 看護学教員養成課程

- 県内の看護師等養成所の看護学教員や医療現場で看護学教育の実践指導者を担当する者への教育機会の提供
- 本学の理念を貫くカリキュラムによる本学ならではの教育展開



教員と学部生

課程生



教員と学部生

課程生

課程生

学部教育(看護技術学演習)の参加観察

県民向け事業

- 県民向けの「公開講座」「公開授業」「出前なんでも講座」により本学の教育と研究成果を県民に直接的に還元



公開講座の様子



出前なんでも講座の様子

● 放射線測定協力事業

- 放射線測定に関する助言・指導、測定値の解釈・評価、対策の立案・実施に関する助言等「県民の安全安心の提供」

● 地域連携推進事業

- 大学や本センターの活動を広く県民に周知
- 群馬県健康福祉部や他大学との連携、ボランティア活動により、県民の保健医療福祉に寄与する地域に根ざした取り組み



- リーフレットの作成
- News Letterの発行(年3回)
- 地域貢献活動報告書の発行



- ボランティア活動(地域および病院での活動)

- 県内他大学との協力・連携事業
- 一般住民・団体を対象とした講演・研修
- 桂萱地区・芳賀地区住民との協働
- 地域に開かれた図書館



県民

地域

● 目指す地域

看護学分野

- 看護学教員養成課程
- 看護職研究支援事業
- 看護師特定行為研修課程
- 県立病院・県内病院連携事業
- 健康福祉政策事業

県立の保健医療系大学として研究成果などを、県民をは者、行政などに対し還元する療・福祉の向上に寄与する

地域連携センター2020

ともに発展することを目指して



● 看護師特定行為研修課程

- 看護師特定行為の指定研修機関として、慢性期及び在宅医療に貢献できる特定行為研修修了者を育成するための研修機会を提供



● 放射線教育・研修事業



放射線治療講習会



MR I 技術講習会

- 学習指導要領の改訂に伴う学校教員等に対する放射線教育の支援
- 診療放射線技師の撮像技術向上、MRI専門技術者の資格取得を視野に入れた継続教育の実施

● 看護職研究支援事業「看護研究セミナー」と「看護研究個別支援」



- 「看護研究セミナー」と「看護研究個別支援」による看護職者への研究活動の支援
- テーマに合わせた担当教員の決定、9か月にわたる個別支援

講義:研究計画書の作成

講義:文献検索と文献検討

講義:研究における倫理

看護研究個別支援

行政

行政との協働事業

● 健康寿命延伸プロジェクト

群馬県保健予防課

群馬県健康科学大学

- 地域の実態把握・課題分析・健康課題の明確化
- 調査研究・実践プログラムの開発・人材育成

科学的根拠に基づいた健康づくり対策の展開

- ① 健康福祉部との健康寿命延伸シンポジウム開催等の協働事業
- ② 小規模町村支援事業
(榛東村との健康づくり推進に関する包括協定)
- ③ 館林市健康寿命延伸プラットフォーム事業への協力
- ④ 生活習慣改善のための健康教育教材の開発
- ⑤ 健康増進効果検証事業に対する取り組み
- ⑥ 沼田市「スマートウェルネスぬまた推進事業」への協力
- ⑦ ぐんま元気エクステンションセミナーの開催



など

● 健康福祉政策事業

群馬県
健康福祉部
生活こども部

情報交換
マッチング

大学
看護学部
診療放射線学部

- 認知症サポーター・ステップアップ講座教材の普及活動
- 子育て講座プログラム政策・普及への協力
- 「若い世代の食育推進協議会」への参加



連携

貢献の方向性

診療放射線学分野

- 放射線教育・研修事業
- 放射線測定協力事業

- 地域連携推進事業
- 健康寿命延伸プロジェクト
- 教育普及事業

て、大学が所有する知的財産
じめ広く関係機関、医療従事
ことにより、県民の保健・医

令和2年度地域貢献活動報告書の発刊に寄せて

本学の地域連携センターは、県立の医療系大学として、大学が所有する知的財産や研究成果を、県民をはじめ、広く教育機関、医療機関、医療従事者、行政等に対し還元することにより、県民の保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的として、平成24年度に開設されました。平成30年度より本学の運営は群馬県公立大学法人へ移行されておりますが、開設から9年もの間、関係者の皆様には、地域連携センター事業の発展のために、変わらぬご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域連携センターの目的を果たすために思案を重ねながらの取り組みとなりましたが、新たに「看護師特定行為研修課程」を加え10事業を展開いたしました。

「看護学教員養成課程」は、厚生労働省による専任教員養成講習会の認定を受け、本学独自のカリキュラムに基づく教育を提供しています。令和2年度は14名が修了しました。

「看護師特定行為研修課程」は、厚生労働省による研修機関としての指定を受け、eラーニングや学内演習・実技試験、実習を経て第1期生5名が修了しました。

「県立病院・県内病院連携事業」は、県立4病院の看護および診療放射線部門における課題解決に向けて行う事業ですが、新型コロナウイルス感染症により今年度は各病院において可能な範囲で研修を実施しました。

「看護職研究支援事業」は、県内の看護職を対象に令和元年度からの継続グループを対象に個別支援を行いました。

「放射線教育・研修事業」は、関東がん専門医療人養成拠点事業による講習会、オンラインによるCTやMRIの研究会の開催、共同研究を実施しました。また、群馬県診療放射線技士会が開催する講習会に講師派遣や開催を支援しました。

「放射線測定協力事業」は、要請のあった地域の放射線量測定を実施し、測定結果に基づく評価を行い、県民および地域の安心につながる情報提供を行いました。

「教育普及事業」は、オンデマンド配信による感染症対策に関する内容を配信しました。

例年好評を得ている出前なんでも講座は感染防止対策として中止しました。

「地域連携推進事業」は、Newsletterや地域貢献活動報告書、センター事業リーフレットを作成し、県民や関係機関への情報発信を行いました。

「健康福祉政策事業」は、認知症サポーター養成支援について、県外からの依頼を受け、DVD配布やオンラインによる研修を実施しました。また、県民の健康福祉施策は、県の関連機関と協働し、今後の活動について検討しました。

「健康寿命延伸プロジェクト」は、県の健康福祉部保健予防課と共催し、オンラインによる講演会を実施しました。また、榛東村に対する小規模町村支援事業を行いました。その他、館林市健康寿命延伸プラットフォーム事業、小中学生保護者向け健康教育教材の開発、県立ゆうあいピック記念温水プールにおける健康増進効果検証事業、スマートウエルネスぬまた推進事業への協力、ぐんま元気エクステンションセミナーはコロナ禍のため中止となりました。

以上のように、コロナ禍においても活動を行い、1年間の活動報告書を発行できることになりました。一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と皆様のご健康をお祈り申し上げます。引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年10月

地域連携センター長 行 田 智 子

目 次

I 地域連携センターの活動

1. 群馬県立県民健康科学大学 地域連携センター概要

1) 設置概要	2
2) 事業概要	3

2. 事業報告

1) 看護学教員養成課程	4
2) 看護師特定行為研修課程	6
3) 県立病院・県内病院連携事業	8
4) 看護職研究支援事業	10
5) 放射線教育・研修事業	12
①放射線治療講習会	
②診療放射線技師CT・MRI研究会事業	
③診療放射線技師継続教育等事業	
④群馬県診療放射線技師会講習支援事業	
⑤国際化研究支援事業	
6) 放射線測定協力事業	18
7) 教育普及事業	19
8) 地域連携推進事業	21
9) 健康福祉政策事業	22
10) 健康寿命延伸プロジェクト	24
11) ピックアップ	27
12) Newsletter	28
13) トピックス	34

II その他の地域貢献活動

1. 学会活動	36
2. 一般住民・団体を対象とした講演・研修	41
3. 保健医療専門職を対象とした講演・研修	42
4. 行政組織での活動等	44
5. 任意団体での活動	45
6. 他教育機関非常勤講師	46

III 関連規程

・群馬県立県民健康科学大学地域連携センター設置運営規程	50
・群馬県立県民健康科学大学地域連携センター運営会議及び 地域連携センター運営委員会設置運営細則	51

I

地域連携センター の活動

1) 設置概要

本学はこれまで、看護師、保健師及び診療放射線技師の養成校として、臨床現場で活躍できる多くの医療専門職を育成することで、地域の医療水準及び県民の健康水準の向上に貢献してきました。そのような中、平成19年の学校教育法の改正等により、「社会貢献」が「教育」、「研究」に次ぐ大学の第3の役割に位置づけられたことを踏まえ、本学においても、これまで以上に地域貢献を推進するため、平成24年4月に大学附属機関として、地域連携センターを設置しました。

本学地域連携センターは、県公立大学法人の医療系大学として、大学が所有する知的財産や研究成果等を、県民をはじめ、広く教育機関、医療機関、医療従事者、行政等に対し還元することにより、県民福祉の向上に寄与することを目的として、地域貢献に関する各種事業に取り組みます。

■地域連携センター運営会議構成員一覧（令和2年4月1日時点）

区 分		氏 名
委員長	地域連携センター長、健康福祉政策事業	横 山 京 子
副委員長	地域連携副センター長、健康寿命延伸プロジェクト	大 澤 真奈美
	地域連携副センター長、診療放射線技師継続教育等事業	小 倉 明 夫
委 員	看護学部長	巴 山 玉 蓮
	診療放射線学部長	下瀬川 正 幸
	看護学教員養成課程	高 橋 裕 子
	看護師特定行為研修課程	飯 田 苗 恵
	県立病院・県内病院連携事業（看護学部）	廣 瀬 規代美
	県立病院・県内病院連携事業（診療放射線学部）	上 原 真 澄
	看護職研究支援事業	上 山 真 美
	放射線教育・研修事業 放射線治療講習会事業	佐々木 浩 二
	放射線教育・研修事業 診療放射線CT・MRI研究会事業	林 則 夫
	放射線教育・研修事業 群馬県診療放射線技師会講習支援事業	五十嵐 博
	放射線教育・研修事業 国際化研究支援事業	小 倉 敏 裕
	放射線測定協力事業	杉 野 雅 人
	教育普及事業	青 木 武 生
	地域連携推進事業	行 田 智 子
	事務局	新 井 徹
	（県健康福祉部健康福祉課）	中 島 高 志
	（学外有識者：県看護協会）	荻 原 京 子
	（学外有識者：県診療放射線技師会）	後 閑 隆 之
	（学外有識者：県医師会）	瀬 古 聖 一
	（学外有識者：県立心臓血管センター）	内 藤 滋 人

2) 事業概要

事業名	事業概要
1 看護学教員養成課程 P.4～5	看護師養成教育機関の看護学教員や臨床現場で教育的役割を担う教育担当者を対象とし、看護基礎教育に携わる教育者としての役割を遂行するために必要な知識・技術を教授する。大学主体で看護基礎教育に携わる教育者の教育実践能力の維持向上を図る。
2 看護師特定行為研修課程 P.6～7	特定行為研修の研修機関として指定を受け、在宅医療に貢献できる特定行為研修修了者を育成するための研修の機会を提供する。
3 県立病院・県内病院連携事業 P.8～9	県病院局総務課、県立4病院（心臓血管センター、がんセンター、精神医療センター、小児医療センター）と本学で、4病院が抱える課題、たとえば人材育成等について、その解決に向けた連携事業を継続して、組織レベルで展開する。
4 看護職研究支援事業 P.10～11	県内の病院、行政機関、健診機関、訪問看護ステーション、福祉施設、事業所等に所属する看護師、保健師、助産師を対象に、看護研究を実施する際に必要な研究の基礎的知識を習得するための看護研究セミナーと、研究テーマに沿って看護研究の一連の過程を本学教員が支援する看護研究個別支援を実施し、県内の看護職者の研究活動を支援することで、研究能力の向上と県民の健康の保持・増進に寄与する研究成果の産出を図る。
5 放射線教育・研修事業 P.12～17	(1) 放射線治療講習会 がんプロフェッショナル基盤養成プランの一つとして、筑波大学を中心に取り組んでいる「関東がん専門医療人養成拠点」事業に沿って、放射線治療教育プログラムのセミナーを開催する。これを通じて、治療技術の普及や向上とともに、がんの早期発見に繋がる検診への関心を高める。 (2) 診療放射線技師CT・MRI研究会事業 県内の診療放射線技師の臨床研究支援事業として、臨床現場における画像診断検査の向上・発展を目的とする研究の推進と発表に必要な方法を討論する研究会を実施する。 (3) 診療放射線技師継続教育等事業 県内診療放射線技師の撮像技術向上事業として、「MRI専門技術者」資格の取得を視野に入れた講習会等を開催するほか、MRIを用いた共同研究と研修会を実施する。これらにより、診療放射線技師が最新の知識・技術を習得できるようにし、がん等の疾病の早期発見の機会の増加を図る。 (4) 群馬県診療放射線技師会講習支援事業 群馬県診療放射線技師会が開催する講習会等へ講師の派遣を行い、地域の診療放射線技師の技術向上に貢献する。また、関連の講習事業についても開催支援を行い、診療放射線技師のさらなる知識・技術の向上に貢献する。 (5) 国際化研究支援事業 県内診療放射線技師の研究支援事業として、国際学会発表を目的とした講習会等を実施する。
6 放射線測定協力事業 P.18	放射線測定に関する助言・指導、測定値の解釈・評価、対策の立案・実施に関する助言等を通じて、県民に安全・安心の提供を図る。
7 教育普及事業 P.19～20	県民向けの公開講座、出前講座及び公開授業等を行い、地域貢献活動を積極的に行う。
8 地域連携推進事業 P.21	本センターの活動を広く県民に周知するために、地域連携センターNews letter及び地域貢献活動報告書を発行する。また、学生ボランティア活動の支援体制の充実に取り組む。
9 健康福祉政策事業 P.22～23	健康福祉政策事業では、群馬県健康福祉部との情報交換会継続と、マッチングした事業の展開を図る。
10 健康寿命延伸プロジェクト P.24～26	平成28年度政策プレゼン「健康寿命延伸プロジェクトⅡーぐんまエクステンションプラン」を展開するため、健康福祉部保健予防課と協働し、「健康寿命延伸シンポジウム」及び「小規模市町村支援事業（榛東村）」、「ぐんま元氣エクステンションセミナー」などに取り組む。

看護学教員養成課程

担当者／看護学部 松田教授、山下教授、服部准教授、◎高橋(裕)講師、河内講師

1 事業目的・内容

県内および県外の看護師養成教育機関の看護学教員や臨床現場で教育的役割を担う教育担当者を対象に、看護基礎教育に携わる教育者としての役割を遂行するために必要な知識及び技術を教授する。

本課程は、群馬県委託契約に基づき、大学の企画・運営により看護学教育に携わる人材の育成に関わる事業として取り組んでいる。また、看護学教員の教育実践能力の維持向上に向け、継続的に学び続けられるような体制づくりに努める。

2 実施結果

(1) カリキュラム、授業計画に沿った授業の実施

ア 実施授業科目 20科目（基礎分野5科目、専門科目15科目）

イ 総カリキュラム時間数：885時間

ウ 教育実習

看護学教育授業展開論Ⅱ（講義）

実施期間：令和2年10月12日（月）～11月27日（金）

県内看護師養成教育機関において実施

看護学教育授業展開論Ⅳ（実習）

演習に変更（新型コロナウイルス感染症のため）

(2) 公開授業

看護学教育授業展開論Ⅱ（講義）：公開中止（新型コロナウイルス感染症のため）

看護学教育授業展開論Ⅲ（演習）：公開中止（新型コロナウイルス感染症のため）

(3) 令和2年度看護学教員養成課程修了式

日程：令和3年3月23日（火） 修了生：14名

修了後は、看護師養成教育機関の教員または病院の教育担当者として勤務

(4) 厚生労働省「教育訓練給付金制度（一般教育訓練）」指定講座認定：該当者1名

(5) 2021年度看護学教員養成課程学生募集（募集定員20名）

ア 看護学教員養成課程説明会の実施 9月26日（土）：参加者11名

イ 本学ホームページ、上毛新聞、FM群馬に課程生募集の案内掲載

ウ 看護学教員養成課程の紹介パンフレットを作成し、関東甲信越・東北地方の3年課程看護師養成教育機関への課程生募集の案内送付

エ 群馬県看護学会にて、県内施設の活動紹介として展示、学生募集の説明実施

オ 入学者選抜試験：第1次募集 令和2年12月17日（木）

→出願者：10名 合格者：8名 入学手続者：8名

第2次募集 令和3年2月18日（木）

→出願者：4名 合格者：3名 入学手続者：3名

3 事業成果・効果

本課程は、大学の学習環境を最大限に活用し、学部教育との連携を図りながら授業を提供している。課程生は、本課程独自のカリキュラムに基づき、学習した知識と教育実践とのつながりを持ちながら、1年間学習することを通して、教育実践に必要な能力を修得している。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部時間割を修正したり、リモート授業を実施したりするなど、変更を余儀なくされたが、課程生全員が目標達成することができ、修了が認められた。修了後は、県内および県外の看護専門学校教員として、また病院での教育担当者として活躍が期待されている。これらを通し、群馬県の看護基礎教育の質向上に貢献している。

4 事業の課題及び改善の方向性

入学者確保に向けて、学生募集活動を強化しているが、近隣の講習会開催の影響もあり、欠員が生じている。昨年度から実施している課程の説明会開催は、参加者の受験につなげることができた。次年度も、本課程の理解につながる活動を強化していく。今年度は、厚生労働省より「専任教員養成講習会ガイドライン」の一部改正があり、カリキュラムの評価・内容の検討を行った。次年度は、新しいカリキュラムによる授業実施となるため、実施状況を評価しながら、看護学教員養成課程事業の推進を図る。



看護師特定行為研修課程

担当者／看護学部 横山センター長、巴山学部長、◎飯田教授、高井教授、行田教授、廣瀬教授、狩野教授、宮崎教授、大澤（真）教授、田村助教
診療放射線学部 瀬川教授

1 事業目的・内容

群馬県内の慢性期・在宅医療等のニーズに対応し、チーム医療のキーパーソンとして貢献できる特定行為研修修了者を養成するための研修の機会を提供する。

2 実施結果

(1) 研修の実施

- ア 共通科目 7科目（6科目eラーニング、1科目学内実習）
- イ 区分別科目「呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連：気管カニューレの交換」「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整、脱水症状に対する輸液による補正」の2区分3行為
- ウ 学内演習・実習等
 - 学内Ⅰ：4月6日（月）オリエンテーション、放送大学よりeラーニングのデモンストレーション等
 - 学内Ⅱ：5月29日（金）ICT研修の継続支援、進捗の確認、レポート添削
 - 学内Ⅲ：8月26・27日（水・木）9月9・10日（水・木）（4日間）「特定行為共通科目統合実習」
 - 学内Ⅳ：9月25日（金）区分別科目の学内演習・技術練習
 - 学内Ⅴ：10月23日（金）区分別科目の実技試験（OSCE）
10月27日（火）区分別科目の学内演習・筆記試験
- エ 臨地実習
 - 11月2日（月）～2月26日（金）（16週）区分別科目の臨地実習
 - 協力施設および指導者との実習調整、提出課題の添削指導、施設訪問による対面指導

(2) 研修運営委員会

- ア 議事：研修の企画・立案、実施に関する学内調整、実習を行う医療機関等との連絡調整等に関すること
- イ 開催回数：定期開催11回、臨時（持ち回り審議）3回

(3) 研修管理委員会

- ア 議事：研修計画の策定、進捗管理、修了認定に関すること
- イ 開催回数：2回（第1回 書面会議：8月、第2回オンライン会議：3月8日（月））

(4) 令和3年度受講生の募集・試験

- ア 募集要項の作成、広報活動
- イ 受講希望者事前面談（1次募集：6月～8月、2次募集：11月）
- ウ 入学試験：1次募集9月3日（木）合格者3名、2次募集12月11日（金）合格者1名

(5) 課程生の所属施設看護管理者を対象とした会議

研修修了者の活動環境の整備についての情報交換：9月17日（木）

(6) 届出、申請または報告等に関する調整・手続

- ア 令和2年度の教育内容の改善及び人事異動等に伴う届出
- イ 研修修了証のデザイン等交付準備及び交付

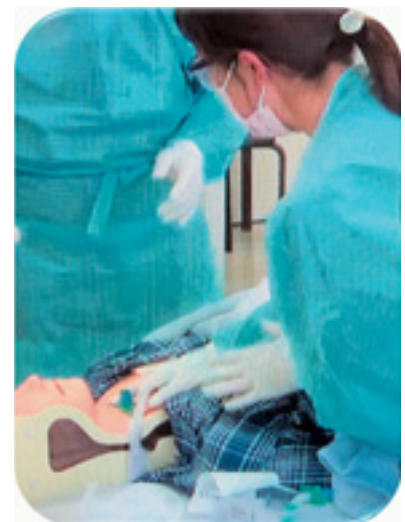
- ウ 修了者看護師報告の準備
- エ 年次報告の準備（令和3年6月30日までに報告）
- オ 新規の協力施設の届出に関する調整・準備
 - ・新規の協力施設の確保（前橋赤十字病院）
 - ・入講予定者の所属する施設（渋川医療センター）
 - ・訪問看護師への実習協力施設（前橋協立病院・協立診療所）

3 事業成果・効果

本課程では本年4月より県内の慢性期・在宅医療ニーズに対応し、県内の特定行為研修を希望するすべての施設の看護師に研修機会を提供している。研修は、県内すべての受講生が働きながら学修するためにeラーニング及び本学のオンライン教育システムの活用を基本とした。限られた学内演習・実習では、特定行為研修の教育経験豊富な非常勤講師（医師）、県内の特定行為研修修了者、模擬患者、本学教職員が協力し、シミュレーション教育を取り入れ、充実した学修を展開できた。区分別科目では、医師による講義・演習を行い、技術試験はオンライン教育システムを活用した技術動画の配信及び吸引シミュレータの貸与により、自宅や自施設での反復練習が可能となり全員合格であった。臨地実習では、協力施設の管理者・指導者との実習調整、提出課題の添削指導、施設訪問による対面指導を行い、受講生が順調に症例を重ねることができた。これらをとおして、本課程の第1期生5名が研修管理委員会にて修了認定されたため、群馬県内の慢性期医療や在宅医療等のニーズに貢献できたと考える。

4 事業の課題及び改善の方向性

来年度は、初年度の研修内容全般に関する改善、第1期生のフォローアップ研修の企画、受講生等から希望があった新たな区分の導入に関する検討が課題である。また、訪問看護師の受講が決定しており、他施設での臨地実習に初めて取り組むため、他施設に協力いただく臨地実習が課題である。



県立病院・県内病院連携事業

担当者／看護学部 横山センター長、松田教授、◎廣瀬教授、富永講師
診療放射線学部 ◎上原教授、渡部准教授

1 事業目的・内容

4病院が抱える課題について、県立4病院（心臓血管センター、がんセンター、精神医療センター、小児医療センター）と県民健康科学大学とが協働して、その解決に向けた連携事業を継続して展開する。

2 実施結果

<看護部門>

(1) 4病院共通

ア 令和2年度連携事業に関する情報共有と確認

イ 日時：令和2年6月24日（水）、令和3年2月19日（金）

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う警戒度レベルに応じて4病院看護部長を含めた会議を中止し、北爪看護人材支援専門官と事業責任者にて電話対応により今年度の事業内容の進捗状況の情報共有・確認を行った。

・4病院の医療提供体制の確保や看護体制の整備・再編等による多忙な勤務状況において、4病院共通課題である看護管理コースの教育内容の見直し・検討については、進捗状況が大幅に遅れ次年度継続課題とすることとなった。

・今年度は各病院の可能な範囲で状況に応じて研修内容の検討を実施した。

ウ 内容：①課題テーマ「群馬県立病院看護職者の学習ニード・教育ニード診断結果に基づく各病院の研修プログラムと4病院共通の教育・研修プログラムの再構築」の継続・看護管理コース研修の目標、教育内容・教育方法の再検討

②各病院の研修内容の検討

(2) 小児医療センター

ア テーマ：先輩看護職全員による新人看護職教育への参加

イ 講師：本学看護学部 講師 富永明子 先生

ウ 実施状況：

①プリセプターフォローアップ研修

②プリセプター研修

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い研修会への講師派遣を中止とし、必要に応じて資料提供を行った。

<診療放射線部門>

県立病院へのニーズ調査、大学教員とのマッチング及び来年度の実施に向けた打合せ会議等を適宜実施する予定であったが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり各病院からの具体的な要望がなかったため実施に至らなかった。

県内病院向け事業として備品の貸出事業についても、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、研修会等が中止または延期となり備品貸し出し需要はなかった。

3 事業成果・効果

<看護部門>

今年度は県立4病院共通課題の継続事業において「看護管理コース研修の教育内容の充実を図る」ことを課題とし、看護管理コース研修の目標、教育内容、教育方法の再検討を予定した。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う医療提供体制の確保により各病院の業務負担増の状況を考慮し、次年度に見送ることとなった。また、個別事業においても講師派遣を中止とした。本事業の進捗状況を含めた情報共有を看護人材支援専門官と本学事業責任者間において連絡調整を図り、社会情勢に応じて次年度継続課題とすることを確認した。

<診療放射線部門>

備品貸し出しは、県内民間病院等への備品の貸し出しを例年実施してきたが今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり研修会や研究会等が中止もしくは延期となりそれに伴って備品貸し出しの要望がなかった。

4 事業の課題及び改善の方向性

<看護部門>

4病院共通事業を継続中である。「学習ニーズ・教育ニーズの調査結果に基づく根拠のある教育プログラムの再構築」とそのプログラムにより看護職の教育の推進を図ることができれば、県民に質の高い看護を提供することが可能となる。次年度は、4病院共通ラダーに基づき「看護管理コース研修の教育内容の充実を図る」ことを継続課題として取り組む予定である。理論と実践を統合する上での基礎的知識を得ることを目的に、研修の目標レベルの設定、教育内容の抽出及び具体的な教育方法の検討において協力支援を実施していきたいと考える。

<診療放射線部門>

令和元年度から実施した事業に、引き続き取り組む。事業効果を最大限に得るために県立病院と密に連絡を取り合いながら事業を進めていく必要がある。また、備品貸し出しについては、県内民間病院への適応拡大に向けた準備を行い広く貸し出しを行っていきたい。

看護職研究支援事業

担当者／看護学部 ◎上山准教授、橋本准教授、木村講師、浅見講師、戸谷講師、丸澤講師、佐々木講師

1 事業目的・内容

県内の医療機関、行政機関、訪問看護事業所、福祉施設等に所属する看護師、保健師、助産師を対象に、看護研究を実施する際に必要な研究の基礎的知識を習得するための「看護研究セミナー」を実施する。全セミナーを受講した者に対して研究計画を募集、研究の一連の過程を本学教員が支援する「看護研究個別支援」を実施し、県民の健康の保持・増進を担う県内看護職者の研究活動および看護実践上の課題解決等を支援する。

2 実施結果

- (1) 看護研究セミナー ＊以下を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大がみられたため中止した。

ア 第1回講義「看護研究計画書の作成」本学看護学部 講師 木村美香 先生

イ 第2回講義「看護研究における倫理と手続き」本学看護学部 准教授 橋本晴美 先生

ウ 第3回講義・演習「看護研究のための文献検索と文献検討」本学看護学部 講師 佐藤正樹 先生

- (2) 看護研究個別支援（新規）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により看護研究セミナーを実施できなかったため、個別支援の対象者がいなかった。

- (3) 看護研究個別支援（継続）

2019年度に個別支援を行った10グループのうち、継続支援の希望があった7グループ27名に対し、各支援担当教員が継続して支援を行った。

- (4) 研究成果報告会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大がみられたため中止した。

3 事業成果・効果

- (1) 看護研究セミナー 中止

- (2) 看護研究個別支援（新規） 該当者なし

- (3) 看護研究個別支援（継続）

昨年度の個別支援グループの中から、希望するグループに対する個別支援（継続）を実施した。昨年度の個別支援10グループのうち、7グループが個別支援（継続）の申請を行い、学会発表や施設内報告に向けて研究活動を継続した。県内の看護職者の研究活動を継続的に支援することで、研究能力の向上が見込まれ、全国学会での発表機会を得ているグループもみられた。これらの成果は、それぞれの看護実践での質向上が期待でき、県民の保健医療福祉の充実に貢献する可能性がある。

- (4) 研究成果報告会 中止

4 事業の課題及び改善の方向性

本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大がみられたため、看護研究セミナー及び看護研究個別支援（新規）、研究成果報告会を開催することができなかった。本事業の対象は、医療現場の最前線で働く、看護師、助産師、保健師であるため、次年度はWeb開催等、安全に事業が実施できるような方法を検討することが課題である。また、セミナー等の申込方法が次年度より郵送からメールに変更となるため、リーフレットや募集要項への掲載をする等、参加者が理解しやすいように修正した。また、対面での開催からWeb開

催など、本事業の開催概要を変更するため、参加者がインターネット環境などを整えられるよう、次年度のリーフレット等を早めに作成した。

次年度は、本事業を通して、県民の健康の保持・増進を担う県内の看護職者の研究活動および看護実践上の課題解決等の支援を再開する。

放射線教育・研修事業（放射線治療講習会）

担当者／診療放射線学部 ◎佐々木教授、高田准教授、大野准教授

1 事業目的・内容

「多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン」に選定された、筑波大学を中心とした13大学による「関東がん専門医療人養成拠点」事業に沿って、放射線治療教育プログラムのセミナーを開催した。これを通じて、放射線治療技術の普及や向上とともに、がんの早期発見に繋がる検診への関心を高めた。

2 実施結果

(1)「関東がん専門医療人養成拠点」事業への参画

ア 第1回「医学物理学講演会」

開催日：令和3年2月20日

開催場所：Web開催

参加者：県内外の診療放射線技師、医学物理士、機器開発者、学生（123名）

内 容：放射線治療装置導入の実際

本年度は新型コロナウイルス感染症防止等のため講演会の企画と準備が遅れ、一回の開催となった。最新の放射線治療機器を導入した医療機関の技術者4名（医学物理士および診療放射線技師）から、機器の導入前の計画、導入中の注意事項、導入後の運用等の実際についての知見が報告された。最新の放射線治療機器に関する知識を深め、最新機器導入におけるピットフォールを学んだ。タイプの異なる4種類の装置に関する導入経験を一度に確認できる機会は少なく貴重な機会となった。

非常に有用で実務に役立つ内容が多く、知識の再構築に有用と好評であった。

3 事業成果・効果

群馬県内のみならず広域で放射線治療に携わる診療放射線技師、医学物理士、開発者および学生が講演会により知識を吸収し、ディスカッションを通して普遍的な放射線治療の概念と最新の治療技術を知る機会を提供した。本年度は、がんプロフェッショナル基盤養成プランに沿って、最新の放射線治療装置導入の実際について学び、放射線治療装置導入の進め方やピットフォールに関連する講演を行い知識を深めた。県内の医療機関においてこれらの知識を応用されることが期待される。新型コロナウイルス感染症の影響でWeb開催となったが、参加者は例年の2倍以上であり、多くの方に資することができた。放射線治療技術の向上は、群馬県で治療を受ける患者の利益につながる有意義な活動である。

4 事業の課題及び改善の方向性

放射線治療に携わる医療従事者の育成については、県がん対策推進条例においても明記されており、専門的な医療従事者の質的向上を図る必要がある。

今後も、「関東がん専門医療人養成拠点」事業への参画や、本学独自のセミナーの開催等を通じ、放射線技術系の基礎教育や継続教育に取り組んでいく。

放射線教育・研修事業（診療放射線技師 CT・MRI 研究会事業）

担当者／診療放射線学部 小倉（明）教授、◎林准教授、高橋准教授

1 事業目的・内容

県内の診療放射線技師の臨床研究支援事業として、臨床現場における画像診断検査の向上・発展を目的とする研究の推進と発信に必要な方法を討論する研究会を実施する。これらにより、診療放射線技師の発展的な研究を支援し、大学院への進学や臨床研究の推進を導く。さらに臨床研究の推進により医療機関における医療技術の向上や高度医療の提供による県民への医療サービス向上を目指す。

2 実施結果

（1）第17回健科大CT・MRI研究会の開催

日時：令和2年3月下旬に予定していたが新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して延期して令和2年11日18日にTeamsを用いてWeb開催、参加者15名、内容は以下のとおりである。

19:00～19:20講演1）MRI装置について（前編） 本学診療放射線学部 准教授 高橋哲彦 先生

19:30～19:50講演2）MRIの画質評価（SNRを中心に）

本学診療放射線学部 准教授 林 則夫 先生

19:50～20:00 フリーディスカッション

3 事業成果・効果

第16回健科大CT・MRI研究会までは、参加される各施設の医療従事者（主に診療放射線技師）の臨床研究の進め方や臨床現場における問題点を討論形式で議論していた。今回は、コロナ禍で各施設臨床研究報告が少なかったことや事前アンケートより、さまざまな勉強会や学会が中止になっていることから講演形式で関心のある2テーマの講義を実施した。様々な研究会等が中止になる中、県内の診療放射線技師の方が関心のあるテーマについて享受することができた。また他県と比べて比較的オンライン講習会の整備や関心が低い本県の診療放射線技師の方々にオンライン講習会の便利さと有用性を提示することができた。

4 事業の課題及び改善の方向性

コロナ禍で従来の研究会が実施できなかったが、オンラインによる少人数の研究会を実施できた。参加いただいた数施設の方にとっては初めてのオンライン講習会で、職場から参加できる気軽さを体験できて好意的な感想をいただいた。新型コロナウイルス感染症収束後も対面だけではなく、診療業務が忙しい施設や本学から距離の離れている病院の方も参加しやすいオンライン形式の研究会を実施できるように、次年度以降内容を模索していきたい。

放射線教育・研修事業（診療放射線技師継続教育等事業）

担当者／診療放射線学部 ◎小倉(明)教授、林准教授、川村助教

1 事業目的・内容

診療放射線技師の撮像技術向上事業として、「MRI用ファントム作成」講習会等を開催するほか、MRIを用いた共同研究と研修会を実施する。これらにより、診療放射線技師が最新の知識・技術を習得できるようにし、がん等の疾病の早期発見の機会の増加を図る。

2 実施結果

(1) 本学MRI装置を用いたMRI講習会の開催

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響でMRI講習会の実施を見送った。

(2) 群馬MR研究会への支援

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で研究会がすべて中止になったため支援も実施しなかった。

(3) CT・MRIに関する他施設との共同研究の実施

桐生厚生病院、伊勢崎市民病院、群馬大学医学部附属病院それぞれの放射線部と本学の教員（高橋准教授、林准教授）でMRIによる定量化に関する共同研究を実施した。

3 事業成果・効果

令和元年まで毎年1回、本学MRI装置を使用したMRI講習会を実施して、本県の診療放射線技師を中心にMRIに関する精度管理、認定試験対策などの講習会を実施してきたが、本年は新型コロナウイルス感染症の影響で実施を見合わせた。また群馬MR研究会も実施されなかったため支援を行わなかった。県内施設との共同研究は、本学診療放射線学部の高橋准教授を中心にQSMを用いた定量評価に関する多施設共同研究を始めた。本年度はオンラインで5回打合せを実施した。

4 事業の課題及び改善の方向性

MRI講習会は本県の診療放射線技師はもちろんのこと毎年他県からも多くの参加者に参加していただいており、MRIを主として業務している診療放射線技師にとって有益な講習会であったが、コロナ禍で本年度は実施できなかったことから次年度は実施方法を模索して講習会を実施したいと考える。群馬MR研究会への支援は、群馬MR研究会の活動が再開された場合に施設や運営に対して支援を行う予定である。他施設との共同研究は本年より新たに始まったQSM共同研究をより発展させて進めていく予定である。

放射線教育・研修事業（群馬県診療放射線技師会講習支援事業）

担当者／診療放射線学部 ◎五十嵐准教授、米持助教

1 事業目的・内容

群馬県診療放射線技師会が開催する講習会等へ講師の派遣を行い、地域の診療放射線技師の技術向上に貢献する。また、関連の講習事業についても開催支援を行い、診療放射線技師のさらなる知識・技術の向上に貢献する。

2 実施結果

(1) 令和2年度 群馬県がん検診エックス線撮影従事者講習会

ア 第1回：令和2年10月13日（火）

開催場所：本学多目的ホール

（ア）演題名：『乳がん検診の現状と課題』

講師：ぐんまマンモグラフィ向上委員会 新井敏子 先生

（イ）演題名：『デジタルマンモグラフィの精度管理』

講師：東京都立大学 健康福祉学部 放射線学科 根岸 徹 先生

参加人数：36名

イ 第2回：令和2年11月10日（火）

開催場所：本学多目的ホール

演題名：『胸部XPの読影入門・総集編』

講師：社会医療法人輝城会 城西クリニック 松本満臣 先生

参加人数：41名

※本学からの支援（会場運営・受付等）：五十嵐准教授、米持助教

(2) 診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー

開催日：令和2年12月6日（日）

開催場所：本学多目的ホール

講師：群馬県診療放射線技師会 後閑隆之 先生

医療法人石井会 渋川伊香保分院 青木里佳 先生

本学診療放射線学部 助教 米持圭太 先生

参加人数：11名

※本学からの支援（会場運営・受付等）：五十嵐准教授、米持助教

3 事業成果・効果

群馬県診療放射線技師会が開催する講習会等に講師を派遣し、群馬県内外の技術レベルの向上に寄与することができた。また、がん検診エックス線撮影従事者講習会等の開催にも協力することで、県内のがん検診に従事する診療放射線技師のさらなる知識・技術の向上についても活動することができた。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、当初予定していたがん検診エックス線撮影従事者講習会2回、基礎技術講習1回、女性部及び放射線管理部講習会が中止となった。

4 事業の課題及び改善の方向性

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、会場型の講習会開催に困難が生じた。講師や受講者の感染防止を最優先し、群馬県診療放射線技師会とともにオンライン開催についても検討が必要である。また、令和3年度から新規事業として「タスク・シフト／シェアおよび教育カリキュラムの改正に伴う講習会（仮）」が予定されている。この事業についても、本学から講師派遣や会場提供等できるように準備を進めていく。

放射線教育・研修事業（国際化研究支援事業）

担当者／診療放射線学部 ◎小倉（敏）教授、渡部准教授

1 事業目的・内容

県内診療放射線技師の研究支援事業として、国際学会発表を目的とした講習会等を実施する。これらにより、県内の診療放射線技師が海外に研究内容を発信し、世界レベルのディスカッションが可能となるように、サポートすることにより、県内の医療がより発展することが期待できる。

【具体的な取組み】

- (1) 本学で行っている国際発表研究の紹介
- (2) 国際学会の申請の方法
- (3) 国際学会のスライド作成法・発表方法の講演

2 実施結果

(1) 国際化研究支援講演会開催

本講習会の開催を予定したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、開催を断念した。

3 事業成果・効果

新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、開催を断念したため成果は残念ながら上げることができなかった。

4 事業の課題及び改善の方向性

県内の診療放射線技師等の研究支援事業として、国際的視野を身につけるための講習会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、開催を断念した。今後新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら本学にて、多くの方が世界を視野に入れた活動ができるよう、講師を迎えて講習会を開く予定である。

放射線測定協力事業

担当者／診療放射線学部 原教授、◎杉野准教授

1 事業目的・内容

放射線測定に関する助言・指導、測定値の解釈・評価、対策の立案・実施に関する助言等を通じて、県民に安全安心の提供を図る。

2 実施結果

【空間線量率測定結果の評価】

- (1) 赤城山中腹に設置された木質バイオマス発電所周辺の地域住民に安全と安心を提供するため、前橋市環境部環境森林課が空間線量率測定を4回（5、8、11、2月）実施した。その測定結果について監修および評価を行い、報告書を提出した。測定結果は前橋市のHPで公開されている。
- (2) みどり市の住民に安全と安心を提供するため、みどり市生活環境課が小中学校、公園等の施設計47箇所の空間線量率測定を4回（5、9、1月）実施した。その測定結果について監修および評価を行い、報告書を提出した。測定結果はみどり市のHPで公開されている。
- (3) 毎年、川場村で行われている世田谷区小学5年生の移動教室に先立ち、川場村むらづくり振興課が宿泊施設およびキャンプ場等の空間線量率測定を行った（2021年1月）。その測定結果に基づいて線量評価を行い、報告書を提出した。報告書は、世田谷区教育委員会が行う「川場村移動教室説明会」において、世田谷区内の小学5年生の保護者に配付される予定である（2021年4月）。

3 事業成果・効果

今年度は、バイオマス発電所が本格的に稼働して3年目の空間線量率測定となった。発電所周辺の空間線量率について、稼働前と稼働後の測定値に差異がないことを確認し、地域住民に安全性を示すことができた。稼働前、地域住民から多くの心配と苦情が前橋市に寄せられていたが現在はほとんどなくなったとのことである。みどり市については、4カ月に1回、47施設において空間線量率測定が実施され、その結果について報告書を提出した。年間を通じて測定値に大きな変動はなく、住民からの質問等もない状況である。川場村については、世田谷区の移動教室で利用する宿泊施設やキャンプ場、ハイキングコース等において、2021年1月に空間線量率測定が実施されたが、測定結果は2019年12月とほぼ同様で問題はなかった。測定結果に基づいて作成した報告書を2021年1月に川場村へ提出した。今後も線量評価の依頼があった自治体については、専門学的な立場から測定結果に対してのコメントを提示するとともに、各自治体のHPや説明会等を通じて公表し、住民に安全と安心を提供する。

4 事業の課題及び改善の方向性

東京電力福島第一原子力発電所の事故を契機に、原発由来の放射性物質に対する県民の不安解消の一助となるような活動を計画し遂行した。今後も環境中の放射線および放射能に関わる様々な疑問にお応えし、県民の不安や心配の解消に繋がるための活動を続けていく。また、自治体および市民団体等より、放射線・放射能に関する研修会、講演会等の要望があった際には、基礎的な知識獲得の支援や原発事故前後の県内の放射線量率の変動などについて情報を提供する。これらにより、県民が正しい情報の理解を進めることができ、ひいては県民および地域の方々の安心感に繋がるものと考えている。

教育普及事業

担当者／看護学部 石川教授、鵜生川准教授、林講師、小西講師

診療放射線学部 ◎青木教授、大崎准教授、寺下准教授、西村助手

1 事業目的・内容

主にこれまで実施してきた県民を対象とした公開講座や講演会等の事業を引き続き行い、地域貢献活動を積極的に行う。

2 実施結果

(1) 公開講座の開催（本学主催の県民を対象とした講座）

大学危機管理本部および地域連携センター長の判断で、オンデマンドで1回のみ開催した。

第1回公開講座 「感染症対策 これだけは！」

令和3年1月27日～2月28日の期間YouTubeで公開した。

講義1 新型コロナ、私は結局どうすればいいの？

～すべきこと、しなくてもよいこと、してはいけないこと～

講義2 日常生活で気を付けたい基本的な感染症予防策

【講師】講義1 本学診療放射線学部 教授 瀬川篤記 先生

講義2 本学看護学部 講師 戸谷幸佳 先生

申込件数 91件

再生回数 瀬川先生講義 198回、戸谷先生講義 108回

受講者の意見

- ・瀬川先生の講義はとてもわかりやすかったです。昨年は国内の死亡者が減っていることは驚きです。政府の無策にもかかわらず日本はこの程度に済んでいる。国民の意識がそのファクターXのひとつではないでしょうか。
- ・すごくわかりやすかったです。手洗い動画の水の流し放しは気になってしまった。手袋のはずし方を間違えていたので確認できて良かった。
- ・わかりやすくご説明いただきありがたかったです。テレビ等では感情的に過度に煽るようなものが多いのが嫌で、科学的な判断基準が欲しいと思っていました。感染確率などの指針が示されていたのもありがたかったです。

(2) 出前講座

新型コロナウイルス感染症のため中止

(3) 公開授業（県民を対象とした本学学部授業の公開）

新型コロナウイルス感染症のため中止

3 事業成果・効果

県立大学として求められる水準にふさわしい公開講座となるように、毎年度企画立案をしている。本年度は新型コロナウイルス感染症対応に特化した形で、医師と看護師の立場から、最低限何をすればよいのかということにテーマを絞り、オンデマンドの形で公開講座を実施した。ラジオや大学ホームページ上での広報を積極的に行い、動画再生回数は、講義1・講義2を合わせて300回を超えた。本事業は、上記のような公

開講座や出前講座、公開授業の実施を通じ広く県民に本学の教育活動や教員が実施する研究を理解していただくものであると同時に、県立大学としての存在意義を再認識していただくために重要な事業である。

4 事業の課題及び改善の方向性

大学機能として地域貢献活動を盛り込んだ改正学校教育法の趣旨から鑑み、医療専門職だけでなく、地域住民をはじめ多くの県民の皆様には、大学の知的財産を還元することが要請されている。本学では、これまでどおり、公開講座や講演会に加えて、要請の多い出前講座等にも新たなメニューを加えながら活動を行い、地域貢献活動を積極的に実施すると共に、県民の皆様には、法人化の利点を生かしながら、今以上に出張講座を活用いただけるよう、要望のあった様々なテーマで公開講座を企画するとともに、大学の現状や卒業生の活躍の広報も含め、他委員会と共により広範な広報活動に力を入れる必要がある。

地域連携推進事業

担当者／看護学部 ◎行田教授、高井教授、大川准教授、金谷准教授、中野講師、樋口講師、橋爪講師、鈴木（恵）講師、益子講師、福島講師、林講師、高橋（美）助教、生方助教
診療放射線学部 原教授、長島准教授、川村助教

1 事業目的・内容

本センターの活動を広く県民に知っていただくために、地域連携センターNewsletter及び地域貢献活動報告書を発行する。また、学生ボランティア活動の支援体制の充実に取り組む。

2 実施結果

(1) 地域連携センターNewsletterの発行

- ア Vol.8／No.1 9月発行 特集：新型コロナウイルスと共存する地域貢献
- イ Vol.8／No.2 1月発行 特集：看護師特定行為研修課程
- ウ Vol.8／No.3 3月発行 特集：新型コロナウイルス感染症禍における大学の取り組み

(2) 令和元年度の地域貢献活動報告書の作成・製本化

(3) 地域連携センターリーフレット作成

(4) 学生ボランティア

今年度依頼はあったが、新型コロナウイルス感染症のため、活動は行わなかった。

(5) 他大学との連携

- ア 群馬県の16大学（高専を含む）連携「ダイバーシティ連携地域ネットワーク会議」へ参加した。
- イ 「めぶく。プラットホーム前橋」の会議へ参加した。

3 事業成果・効果

地域連携センターNewsletter、地域連携センターリーフレット、地域貢献活動報告書を発行することで、本センターの活動を広く県民に理解いただけたと思う。特にNewsletterでは新型コロナウイルス感染症と大学の取り組みなどの特集を組み、活動を発信した。

今年度は新型コロナウイルス感染症のため、学生ボランティアの参加はなかったが、感染症が収束した場合には、感染対策を講じた上で、再開の判断を行い、学生のボランティアへの積極的な参加を促し活動を通じて、地域に貢献したいと考える。

他大学との連携を通して、他大学とともに、情報を共有し、地域貢献に役立てていきたいと考える。

4 事業の課題及び改善の方向性

本事業の主要な3つの活動は、群馬県民の皆様にはわかりやすく、適時に伝えることが重要である。その点で、地域連携センターNewsletter、地域連携センターリーフレット、地域貢献活動報告書は、さらに充実させていきたいと思う。また、今年度は新型コロナウイルス感染症のため、学生ボランティア活動はできなかったが、感染が収束した場合には、再開の基準、感染対策などスムーズに再開できるように準備を行う。引き続き他大学との協力・連携事業を通して、情報を共有していく。

健康福祉政策事業（医務課、保健予防課）

担当者／看護学部 ◎横山教授 診療放射線学部 柏倉教授、米持助教

1 事業目的・内容

群馬県健康福祉部等と情報交換を行い、マッチングした事業の展開を図る。

- (1) 認知症サポーター養成支援（要請に応じて展開）
- (2) 県民の健康福祉施策の実現に向けた事業の協働展開
- (3) 県民の健康福祉に向けた施策の立案に必要なデータの分析、活用に係る調査研究等

2 実施結果

(1) 認知症サポーター養成支援

- ア 認知症サポーター・ステップアップ研修教材を大学HPに提示
(ア) 再生回数600件(H29年度より)
- イ DVD教材の配布（茨城県44市町村）
- ウ キャラバンメイトを対象としたWeb研修
(ア) 担当者：狩野教授
(イ) 実施状況：茨城県の対象者（180人）

(2) 県民の健康福祉施策の実現に向けた事業の協働展開

- ア 子育て講座プログラム政策・普及への協力【継続】
「ぐんまの親子仲よしこよし子育て講座」乳児編のプログラムは、生活こども部児童福祉・青少年課母子保健係と次年度以降検討
- イ 健康福祉部保健予防課主催「若い世代の食育推進協議会」への参加【継続】
(ア) 担当者：塩ノ谷講師
(イ) 実施状況：県内7大学教員と学生による協議会に出席
(ウ)「若い世代の食育に関するリーフレットの作成及び配布」も実施
- ウ 「群馬県保健福祉事務所等における胸部X線撮影時の医療被ばく線量測定」
平成29年度より群馬県保健福祉事務所（10施設）に簡易半導体測定器を配布。現在も配布した測定器を使用したX線装置の日常的な精度管理を継続。精度管理の継続的な支援を実施。
(ア) 担当者：米持助教

(3) 県民の健康福祉に向けた施策の立案に必要なデータの分析、活用にかかる調査研究等実施なし

※令和2年度は、健康福祉部との情報交換会は実施されなかった。

3 事業成果・効果

「認知症サポーター養成支援」

平成29年度に開発した認知症サポーター・ステップアップ研修教材を大学ホームページに公開している。これにより、認知症の人々を支える地域づくりの知識の普及に繋がっており、他県からの問い合わせや研修依頼も続いている。

「若い世代の食育推進協議会」参加

協議内容を共有できた。また、「若い世代の食育に関するリーフレットの作成及び配布」にも寄与した。

「群馬県保健福祉事務所等における胸部X線撮影時の医療被ばく線量測定」

群馬県保健福祉事務所（10施設）に配布した簡易半導体測定器（10台）によるX線装置の日常的な精度管理を継続することにより、各保健福祉事務所におけるX線装置の日常的な精度管理方法を確立することが可能となった。

4 事業の課題及び改善の方向性

「認知症サポーター養成支援」については、ホームページに公開した支援教材を広く活用して頂くことにより認知症サポーター養成を支援するとともに、可能な限り社会の要請に対応していく。

「ぐんまの親子 仲良しこよし 子育て講座」プログラム作成については、母子保健係と連携して完成させ、県内市町村に配布することを目指す。また、DVD作成も検討する。さらに、本学教員が子育て講座のトレーナー研修等を企画、運営し、市町村の保健師等に講義を実施していく。

「群馬県保健福祉事務所等における胸部X線撮影時の医療被ばく線量測定」については、精度管理の支援を継続する。また、定期的な測定器の校正を実施すること、組織化により多くの施設に発展・普及させることが今後の課題である。

健康福祉政策事業は、関連部門との情報交換に基づき、課題の重要性や取組の必要性に応じて、急遽発足し展開するという実態がある。教育・研究・地域貢献という3つのバランスをとりつつ、県民の健康福祉に資する活動を計画的に展開できるように、各部門と調整していく必要がある。

健康寿命延伸プロジェクト

担当者／看護学部 ◎大澤(真) 教授、宮崎教授、狩野教授、清水准教授、塩ノ谷講師、鈴木(美) 講師、
坪井講師、佐藤講師、大澤(康) 助教、久保助教
診療放射線学部 瀬川教授、長島准教授、大野准教授、佐藤准教授

1 事業目的・内容

平成28年度に群馬県と本学が連携して提案した政策プレゼン「健康寿命延伸プロジェクトⅡーぐんまエクステンションプラン」を展開するため、令和2年度は以下の事業を実施する。

- (1) 健康寿命延伸シンポジウムの開催
- (2) 「元気に動こう・歩こうプロジェクトーぐんま元気の5か条は第1条の実践から」における「実践フォーラム」の開催
- (3) 小規模町村支援事業のモデル地区として選定した榛東村に対する取り組み
- (4) 館林市健康寿命延伸プラットフォーム事業への協力
- (5) 小中学生保護者会向けの講演会等で活用できる生活習慣改善のための健康教育教材の開発
- (6) 群馬県立ゆうあいピック記念温水プールにおける健康増進効果検証事業に対する取り組み
- (7) 沼田市「スマートウエルネスぬまた推進事業」への協力
- (8) 「ぐんま元気エクステンションセミナー」の開催

2 実施結果

(1) 健康福祉部保健予防課との協働による「健康寿命延伸シンポジウム」の開催

- ・下仁田町での開催を予定していたが、コロナ禍により計画を見送った。

(2) 健康福祉部保健予防課との共催による「元気に動こう・歩こうプロジェクトーぐんま元気の5か条は第1条の実践から」における「実践フォーラム」の開催

コロナ禍により前年度3月の開催が中止となったため、令和2年度の9月に実施延期を予定していたが、さらに延期になり、3月にオンラインでの開催を実施した。

ア 開催時期：配信期間 令和3年3月5日(金)～3月18日(木)。

イ 開催方法：オンデマンド配信(YouTubeチャンネル「tsulunots」にて限定公開。群馬県HPでの申込み。県民への周知は県のHP及び本学のHPにより行った。

ウ 内容

- a. 実践フォーラム趣旨説明
- b. 基調講演「100歳まで歩く～健康寿命の延伸は“動こう・歩こう”の実践から～」
講師：東京新宿メディカルセンターリハビリテーション士長 田中尚喜 先生
- c. 事例紹介 ～地域での「元気に“動こう・歩こう”プロジェクト」の取り組み～
講師：高崎健康福祉大学 健康福祉学部 健康栄養学科 准教授 大家千枝子 先生

(3) 小規模町村支援事業のモデル地区として選定した榛東村に対する取り組み

- ア 特定健診等のデータ分析及び榛東村広報誌への掲載
令和2年度はコロナ禍により活動自粛し、データ分析及び広報誌への掲載は行わなかった。
- イ 慢性腎臓病(CKD) 予防リーフレットの作成
慢性腎臓病(CKD) 予防のためのオリジナルリーフレットを作成した。
- ウ 保健事業計画策定等への参画

村の「第2次健康プランしんとう21」を改訂するための基礎調査として実施した「健康づくりに関する調査」の結果報告書に対して意見を述べた。

エ 身体活動量計のデータを活用した共同研究の開始

平成30年～令和2年の3年間に村の住民に貸し出した身体活動量計のデータ54名分を集計し、榛東村との共同研究への取り組みを開始した。

(4) 館林市健康寿命延伸プラットフォーム事業への協力

コロナ禍により12月下旬にリモート開催の計画が進んでいたが、年末の感染拡大を受け延期、その後中止となった。

(5) 小中学生保護者会向けの講演会等で活用できる生活習慣改善のための健康教育教材の開発

群馬県教育委員会事務局中部教育事務所の協力を得て、小中学生保護者向け講演会を企画していたが、コロナ禍により実施できなかった。

(6) 群馬県立ゆうあいピック記念温水プールにおける健康増進効果検証事業に対する取り組み

コロナ禍により温水プールの全ての事業が中止となったため実施できなかった。

(7) 沼田市「スマートウエルネスめまた推進事業」への協力

本事業に関わるデータ分析・活用方法等について必要に応じて市から相談を受ける予定であったが、コロナ禍により実施がなかった。

(8) 「ぐんま元気エクステンションセミナー」の開催

出前なんでも講座登録時に「健康寿命延伸プログラム」を明示した講座は16テーマであったが、コロナ禍により実施できなかった。

3 事業成果・効果

元気に動こう・歩こうプロジェクトに係る実践フォーラムは、群馬県保健予防課との共催により実施しており令和2年度は3年間の継続事業の3年目にあった。令和2年度は前年度コロナ禍により中止になった内容について3月にオンライン開催することができた。今後その効果について評価していく。

小規模町村支援事業による榛東村に対する取り組みは、コロナ禍によりデータ分析等の多くの活動は自粛となったが、村の各種計画づくり策定への参画や村民の身体活動量計のデータを活用した共同研究は開始することができた。

その他の事業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により活動は休止した。

4 事業の課題及び改善の方向性

健康寿命延伸シンポジウムについては、「ぐんま元気の5か条」の普及啓発に向けて、引き続き健康福祉部保健予防課との協働により効果的なイベントになるように開催していくことが課題である。

元気に動こう・歩こうプロジェクトについては、次年度も引き続き保健予防課と共催して効果的な取組を企画、実施する。

次年度の榛東村に対する支援については、村の要望を踏まえ協議していく。また新規に開始した身体活動量計データを活用した共同研究をさらに進めることが課題である。

館林市健康寿命延伸プラットフォーム事業への協力については、引き続き健康寿命延伸プラットフォーム会議の構成員及び専門委員会の「生きがづくり及び情報発信に関する専門委員会」の委員として協力する。

I-2. 事業報告

小中学生保護者会向け健康教育教材の開発については、小中学校におけるPTA活動の再開状況を見ながら、開発中の教材を用いた講演会の開催を検討する。

群馬県立ゆうあいピック記念温水プールにおける健康増進効果検証事業については、温水プールが再開後、データ収集を継続し、収集したデータの分析を進め、研究成果としてまとめる。

沼田市「スマートウェルネスぬまた推進事業」については、企業と沼田市により事業実施は進められているが、データの分析、活用に関しての検討は沼田市と本学とで連携して進めていく。データを活用できるかたちにしていくことが課題である。

ぐんま元気エクステンションセミナーについては、今後も出前なんでも講座登録時に「健康寿命延伸プログラム」と明示した講座について、「ぐんま元気エクステンションセミナー」として開催する。令和2年度は、昨年度と比較し登録テーマ数が昨年度の12件から16件に増えたため、次年度も新型コロナウイルス感染症の感染収束状況を踏まえ取り組んでいく。

ピックアップ

第1回 公開講座

テーマ「感染症対策これだけは！」

◆講義1「新型コロナ、私は結局どうすればいいの？」

～すべきこと、しなくてもよいこと、してはいけないこと～

本学診療放射線学部 教授 瀬川 篤記 先生

◆講義2「日常生活で気を付けたい基本的な感染症予防策」

本学看護学部 講師 戸谷 幸佳 先生

令和2年度第1回目の公開講座では、「感染症対策これだけは！」を共通のテーマに、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で、自身と周囲の人の安全を守るために心がけるべきことを2名の講師から解説いただきました。

講義1では、本学診療放射線学部の瀬川教授から、巷に流布する様々な情報を整理し、「自分が無理なくできる行動」を確認することをテーマにお話をいただきました。データを示しながら分かりやすく解説いただき、科学的根拠に裏打ちされたお話を聞くことができ安心してという受講者の声が聞かれました。

講義2では、本学看護学部の戸谷講師から、普段何気なく使用しているマスクや手袋、手指消毒の方法についてお話をいただきました。講義内では、実際に手洗い等を行う様子を見せていただき、受講者からも分かりやすいと好評でした。

また、本講座は感染症拡大防止のためオンライン（本学YouTubeチャンネルで公開）で実施しましたが、令和3年1月27日（水）～2月28日（日）の公開期間中に91名の方のご参加をいただきました。

参加者の感想

- ・わかりやすくご説明いただきありがたかったです。テレビ等では感情的に過度に煽るようなものが多いのが嫌で、科学的な判断基準が欲しいと思っていました。感染確率などの指針が示されていたのもありがたかったです。
- ・コロナのニュースは毎日のようにやっていますが家事の合間に見たりしているので理解出来ていないことがありました。今回の講座でコロナウイルスが体の中にどうやって入るか、どうやって具体的に防ぐ方法がわかりました。ありがとうございました。」
- ・知りたい情報がわかりやすく伝えられていたので非常に良かったです。
- ・日頃疑問に思うことを、わかりやすくご説明いただきました。オンライン開催は移動の手間がなく、参加しやすいと思いました。
- ・時流に合ったテーマであり、感染予防の再認識に役立った。





群馬県立県民健康科学大学

Vol.8/No.1 2020.9.30

地域連携センター Newsletter

ごあいさつ

新型コロナウイルスと共存する時代の地域貢献

地域連携センター長 横山 京子



日頃より地域連携センターの事業運営にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本センターは、県民の保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的として設置され、9年目を迎えました。今年度は、新たな事業として「看護師特定行為研修課程」を開始いたしました。専門職を対象とする本課程と看護学教員養成課程の2事業は、新型コロナウイルスの感染予防策を講じた対面式授業とICTを活用した授業により実施しています。他の事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により積極的に展開できない状況ではありますが、少しでも地域社会の発展に寄与できるよう、社会情勢に合わせて検討し慎重に取り組む方針です。

保健医療専門職の教育研究および県民の皆さまとの交流の拠点としてどのように連携できるのか、新型コロナウイルスと共存する時代の地域貢献を模索し挑戦していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス (COVID-19) について

「コロナ予防 ～無理をせず、必要な対策をしぼって確実に～」

診療放射線学部 教授 瀬川 篤記

現代の日本で暮らす私たちにとって、交通事故に遭うリスクをゼロにすることは不可能に近いでしょう。365日、一歩も外出しなければ可能かもしれませんが、そんなことをすれば心を病むなど、かえって健康を損なう可能性すら否定できません。しかし、無理な横断をしない、夜間に歩行する時は黒い服を着ないといった安全対策を徹底すれば、何もしない場合よりもリスクは確実に低下します。それでも決してゼロにはなりません。コロナ対策も同じです。近くに人がいる時、特に会話を伴う場面では必ずマスクを着用する、マスクを外す（＝自分の手で口や鼻に触れることが可能になる）前に、入念な手洗いを確実に行う。個人でできる最も有効な対策は、以上の2点です。くどいですが、コロナ感染症を100%避けることはほぼ不可能です。周囲に誰もいない状況でも頑なにマスクの着用を続けるなど、無茶ないし精神論的な行為に走らず、必要な予防策を冷静に選ぶことが大切です。



【診療放射線学部学生(昨年度卒業生)の優秀研究発表受賞について】

診療放射線学部 准教授 大崎 洋充

2019年11月に開催された第39回日本核医学会技術学会 in 愛媛にて、本学の昨年度の卒業生3名（黒森一星、齋藤友哉、益子裕誠）が、それぞれ学会発表を行いました。骨転移の診断に有用な骨シンチグラフィの撮像技術および定量解析法に関する発表を行いました。発表後、聴講されていた学会参加者から「こういう研究を待っていたよ」と激励され達成感を感じている彼らの表情が印象的でした。その後、2020年1月号の核医学技術（Vol.40, No.1）に黒森君の研究発表が優秀研究発表として選ばれて掲載されていることを知りました。現場の第一線で活躍している放射線技師の方々の前で勇気を振り絞って発表することで大きく成長する学生の可能性に研究発表の重要性を感じました。



【看護師特定行為研修課程がはじまりました】

特定行為は、診療の補助であり、医師が行ってきた医行為の一部を医師の指示のもと看護師が実施できる行為です。この特定行為に係る看護師の研修制度の指定研修機関として4月に開学し、5名が学修を開始しました。e-learningで学んだあと、学内で演習を行いました。詳しくは、次号で報告する予定です。

【WEBオープンキャンパスを開催しました】



新型コロナウイルス感染症対策対応のため、入試説明やキャンパスツアー、学部長や在校生からのメッセージを動画配信しました。また、オンラインでの個別相談会を行いました。

県科大ぐんまちゃんの健康アドバイス



タッピングタッチによるセルフケア ～腕だけ散歩～

看護学部 講師 中野あずさ

タッピングタッチとは、ゆっくり、やさしく、ていねいに、左右交互にタッチすることを基本としたホリスティック（全体的・全人的）ケアです。腕だけ散歩はタッピングタッチのセルフケアの方法で、誰にでも簡単にしてもらえます。まず、脚を肩幅くらいに開いて立ち、膝を弛めます。腕は交互に、ぶらぶらと散歩するように前後に振ります。まさしくその場で「腕だけで散歩」します。歩くこともそうですが、左右交互の動きは心身を安定させる動きのある脳内のセロトニンが増えるとされています。

コツとしては、最初は腕の振りを小さく、慣れてきたら好みの振りにします。音楽をかけたり、好きな景色をイメージしたりするのも良いですね。5～10分くらい散歩できたら、振りを小さくして、上体を左右に2～3回軽くひねります。最後にお腹の部分に両手を当て、ゆっくりと深い呼吸を繰り返します。ご自分へねぎらいの言葉をかけながら、手のひらでお腹を何回か丸く撫でさすり終えるといいでしょう。





地域連携センター事業 看護師特定行為研修課程

一 地元で活躍する特定行為研修修了者の育成を目指して一

看護学部 教授（研修責任者）
飯田 苗恵

本年4月、地域連携センター事業として看護師特定行為研修課程が開設されました。特定行為区分は県内での必要性を検討し、「呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連：気管カニューレの交換」「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整、脱水症状に対する輸液による補正」の2区分3行為です。

県内5病院から5名が入学、4月から区分別科目に共通して必要な共通科目6科目をeラーニングで受講、単位修得しました。8～9月は、4日間、学内で「特定行為共通科目統合実習」を行いました。この演習・実習は、本学教員とともに特定行為研修への教育経験が豊富な非常勤講師の医師及び県内で活動する特定行為研修修了者、模擬患者の会などにご協力いただき、シミュレーション教育を取り入れた充実した研修となりました。9月、10月は区分別科目の講義・演習・OSCE（技術試験）を受け、11月からは協力病院である自施設の指導医等のもとで臨地実習を行っています。

研修修了後は、専門性を高めた看護師が、自施設内での医師や看護師との役割分担及び地元施設との連携の実情に即した特定行為実践に関する協働・連携を創成し、チーム医療においても医師との連携の要となって地域包括ケアシステムのキーパーソンとして活動できることを目指します。



「特定行為共通科目統合実習」を終えた課程生の感想

- 臨床推論では問診から様々な疾患を想定、フィジカルアセスメント等の情報から疾患の鑑別を絞り込んでいく過程がとても楽しいと感じました。
- シミュレーション実習を通して、迷ったり判断に困ったときは全て抱え込もうとせず、医師へ相談することも大切であり、そのことが特定行為を安全に行うことや患者さんとの信頼に繋がっていくと感じました。
- 多職種それぞれの視点でコンサルテーションを計画をすることで、患者さんの安心に繋がることが分かりました。
- 自施設での特定行為実践看護師としての役割を検討していかなければいけないと感じました。



課程生（前列）と担当教員

活動紹介：看護学教員養成課程

ー10年目を迎えるにあたってー

看護学部 講師 高橋 裕子

本課程は、2012年、地域連携センターの設置と共に開設されました。

大学の教育理念に基づく独自のカリキュラムを通して、知識と現実の教育実践を統合させながら、看護基礎教育、看護継続教育に携わる看護職者として必要な知識や技術の修得を目指しています。

2018年には、大学院看護学研究科博士前期課程「キャリア開発コース」への進学が開かれました。2019年には、公式財団法人大学基準協会による大学認証評価において、極めて高い評価を受けています。

本課程を修了した138名は、群馬県のみならず、全国の看護師養成教育機関や医療機関において、教育活動を通して個々の役割を発揮しています。また、修了生からは、「教員としての自分に自信を持ち、学生の支援ができていますと実感しています。」といった言葉をいただいています。今後も、県内の看護基礎教育、看護継続教育の質向上に向けて、課程生の学習活動の支援を進めていきたいと考えています。



使ってみませんか？「ぐんまちゃんと一緒につける健康づくりノート」の紹介

群馬県健康福祉部保健予防課 健康づくり推進室 健康増進係 松本 彩香

県では、健康づくりの実践事項である「ぐんま元気(GENKI)の5か条」を普及啓発し、更に実践を進めるため、「元気に“動こう・歩こう”プロジェクト」を展開しています。その一環として、県民の皆さんの健康づくりに活用していただけるよう「ぐんまちゃんと一緒につける健康づくりノート」を作成しました。



このノートは、健康づくりのために取り組む具体的な目標を自分自身で決め、その目標が達成できたかを記録することができます。また、目標を決める際のヒントや、運動に関する資料なども掲載しています。県のホームページから印刷することができますので、ぜひご活用いただき、このノートをきっかけに、健康づくりに取り組んでみませんか。



Kenkadai A to Z

■MOMONOKI：診療放射線学部の紹介

放射線学部 准教授 林 則夫



平成24年にMRI装置、平成28年にCT装置が導入されました。学内での実機を用いた実験・演習に使用されています。それ以外には、県内の医療従事者を対象とした勉強会や研究会において実機を使用したセミナーや講習会などでも利用されています。実機を用いることで、座学では難しい内容も、体験を通じて深く理解することができます。

お知らせ

共同研究・若手研究発表会

看護学部および診療放射線学部の教員による研究成果の発表会を開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

【日 程】令和3年3月中旬

【対象者】群馬県内で従事する保健医療関係職者

※詳細は、本学ホームページでお知らせします。

発行：群馬県立県民健康科学大学地域連携センター 〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
TEL: 027-235-1211 FAX: 027-235-2501 URL: <https://www.gchs.ac.jp/>



群馬県立県民健康科学大学

Vol.8/No.3 2021.3.12

地域連携センター Newsletter

特集：コロナ禍における大学の取り組み

コロナ禍における大学の取り組みを振り返って

群馬県立県民健康科学大学 学長 高田 邦昭



昨年1月に日本で最初の新型コロナウイルス感染者が出てから一年と少し経ちました。一昨年末に中国の武漢から始まった感染は、世界中での大規模な感染へと広がり、文字通りパンデミックの状況となりました。

小学校、中学校、高等学校への休業要請、緊急事態宣言の二度にわたる発出など、日本社会は大きな影響を受けました。このような状況に直面し、本学では危機管理規程に基づき危機対策本部を設置して対応に当たりました。前期授業は、遠隔授業ワーキンググループを中心に準備を進め、5月連休明けから遠隔授業方式で開始しました。

新入生や在学生へのオリエンテーションなども動画配信で行うなど、初めての試みが多かったのですが、教職員の工夫と学生の協力により、前期を無事に乗り切ることが出来ました。地域連携センター事業の看護学教員養成課程は、基本的には大学院に準じて遠隔授業と対面授業を行いました。今年度から始まった特定行為研修課程は、当初から基本eラーニングの予定だったので、コロナ禍の中では比較的順調でした。

感染もある程度落ち着いた後期は、首都圏などが対象の緊急事態宣言が1月に出るまでは対面中心での教育を行いました。また、公開講座については、動画配信での開催となりました。

感染状況は、刻一刻と変わり、ひと月前には予想だになかった事態になったことが一度や二度ではありませんでした。このように、対応措置をあざ笑うかのように急速に変化する感染と、それに対応する国や県の施策とも整合性を取りながら、手持ちのリソースをどう配分するかという大学運営は困難なものでした。

本学は、建学の基本理念に、「保健医療専門職を養成」し、「県民の保健・医療・福祉環境の更なる向上に寄与」することを掲げています。現在のコロナとの戦いにおいて、社会で必要とされる看護師、保健師、診療放射線技師の養成と高度化をはかり、社会へ送り出していくことを最優先課題として大学運営に当たった一年でした。

❖ 学内の感染予防対策 ❖



教職員、学生一人ひとりが、感染予防対策を徹底しながら、大学における学びの質を保つために日々努力しています。



正面玄関には体温測定機器を設置し、来学時の体温チェック！



各講義室前には手指消毒セットをスタンバイ

活動紹介：コロナ禍における大学の取り組みの実際

【看護学実習での取り組み】

看護学部 教授 狩野 太郎

令和2年度はコロナ禍に伴い、看護学実習の受け入れが中止・縮小されるなど大きな影響がありました。受け入れ中止等への対応として、モデル人形や高機能シミュレーターを使った実践的な実技演習、実習目標が達成できるよう教員が知恵を絞って制作したシナリオ教材や動画などを用いた学内演習を行いました。



学内演習では、教員が患者さん役や病気の子を心配する親の役を演じるなど様々な工夫がされていました。

感染拡大に伴い年末以降は実習の受け入れ中止がさらに増加しましたが、感染予防策を徹底しながら受け入れを継続して下さる施設もあり、すべての学生が実際の臨床の現場で受け持ち患者さんへの看護を実践できました（写真）。今年度は例年以上に実習ができるよこびや有り難さを感じながら、生き生きと患者さんに接する学生達の様子が見られました。

大変な状況の中で実習にご協力を頂きました関係機関、患者・家族の皆さまに心より感謝申し上げます。



【放射線学部における遠隔授業（実験科目）での取り組み】

診療放射線学部 准教授 高橋 哲彦

昨年4月～8月まで、2年次の専門基礎科目「医療電気・電子工学実験」を遠隔で行いました。この授業では、受講生12名全員が、電子回路製作・検査や、変圧器の特性計測など3種の実験をします。

回路製作では、工具一式を大学から借り受け、各自宅で電子回路を作りました。課題はそれぞれ1～2か月を要します。そこで遠隔授業を滞りなく進めるため、製品開発プロジェクトなどで用いるWBS（Work Break down Structure：作業分解構造）という手法で実験の進捗を「見える化」しました。毎週の授業にオンラインで集まり、①各々の1週間の進捗を報告、②教員から翌週分の課題をビデオで提示、③質疑応答を行い、全員で進捗を共有しました。

学内で行う計測実験は最小限に絞り、交代制にしました（写真）。各課題の終わりにオンラインで成果発表を行い、全員がプレゼンスライド作成と発表を経験しました。担当教員も学生も初めての遠隔授業でしたが、学内の遠隔授業ワーキンググループの支援を得つつ、課題を最後までやり遂げました。



お知らせ

◆2021年度「出前講座」、「公開授業」のご案内

※詳細は、本学ホームページをご覧ください。URL：<https://www.gchs.ac.jp/>

◆2021年度「看護研究セミナー」、「看護研究個別支援成果報告会」のご案内

【開催方法】Web開催 YouTube 配信(オンデマンド)

【開催時期】5月下旬(予定)

【受講料】無料

【対象】群馬県内の保健医療関係職の方

※詳細は、本学ホームページをご覧ください。

URL：<http://www.gchs.ac.jp/topics/13707.html>

■セミナー内容(90分前後)

セミナー1:「看護研究計画書の作成」

セミナー2:「看護研究における倫理と手続き」

セミナー3:「看護研究のための文献検索と文献検討」

■看護研究個別支援成果報告会



発行：群馬県立県民健康科学大学地域連携センター 〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1

TEL: 027-235-1211 FAX: 027-235-2501 URL: <https://www.gchs.ac.jp/>

トピックス

「令和2年度第1回医学物理学講演会」

本学は、平成29年度に選定された文部科学省所管の研究拠点形成費等補助金、「多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材(がんプロフェッショナル) 養成プラン」 関東がん専門医療人養成拠点事業に参画し、筑波大学を中心に13大学相互連携の下、がんプロフェッショナルの人材養成に取り組んでいます。

令和3年2月20日には、群馬県内外で放射線治療に携わる診療放射線技師、医学物理士、機器開発者及び学生を対象に、最新の放射線治療機器の構造や治療理論とこれらを用いた最新の治療技術について学ぶ機会を提供することを目的とする「医学物理学講演会」をオンライン（Zoom）で開催しました。

講師には、最新の放射線治療機器を導入した医療機関の技術者（医学物理士及び診療放射線技師4名）をお招きし、機器導入前の計画時に検討が必要な事項、導入中に注意すべき事項及び導入後の運用等についてご講演をいただきました。

当日は、例年の2倍以上となる123名の方々にご参加いただき、放射線治療技術の向上に対する関心の高さが窺われました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度はオンラインでの開催となりましたが、受講者からは移動の手間がかからず参加しやすかったと好意的な意見が数多く寄せられました。開催方法をオンラインとすることにより、コロナ禍においても、放射線治療に携わる医療従事者等の専門知識の習得に貢献することができました。

【参加者の声（アンケートより）】

- ・ 治療装置の導入の実際について知見を得られたのが良かったです。
- ・ 新規治療機器導入の際の、治療機器の選択の仕方から受入試験、コミッショニングの実務的なことまで、分かりやすく丁寧に教えていただき、非常に有意義な講演会でした。
- ・ 自施設での前回の更新時と比べ、簡便になってきている部分と高度に考慮しなければならない部分が多々ある事を認識できました。しっかり勉強し直そうと思いました。
- ・ 使用メーカー以外（特殊装置も含め）の導入事例も聞けて、参考になる部分も多く今後の装置更新に役立てたいと思います。このような講習会を企画していただき、大変感謝しております。
- ・ 今後の実務に直結する内容であり、大変参考になりました。

Ⅱ

その他の 地域貢献活動

学会活動

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時（期間）	実施場所	対象者	参加人数
教授	行田 智子	日本看護研究学会専任査読委員	日本看護研究学会	令和2年度	—	日本看護研究学会	—
教授	行田 智子	第35回日本母乳哺育学会学術集会企画委員	日本母乳哺育学会	令和元年度～3年度	—	日本母乳哺育学会	—
教授	横山 京子	日本看護教育学会 評議員	日本看護教育学会	令和2年度	—	—	—
教授	横山 京子	日本看護科学学会 代議員	日本看護科学学会	令和2年度	—	—	—
教授	横山 京子	千葉看護学会誌 専任査読者	千葉看護学会	令和2年度	—	—	—
教授	石川 良樹	2020年度日本生物物理学会年会実行委員会	日本生物物理学会	2020年9月16日～ 9月18日	Web	大学教員、 研究所研究員	約1000 名
教授	山下 暢子	日本看護教育学会理事長	日本看護教育学会	令和2年度	—	—	—
教授	山下 暢子	日本看護教育学会評議員	日本看護教育学会	令和2年度	—	—	—
教授	山下 暢子	日本看護教育学会専任査読者	日本看護教育学会	令和2年度	—	—	—
教授	山下 暢子	日本看護研究学会評議員	日本看護研究学会	令和2年度	—	—	—
教授	狩野 太郎	日本がん看護学会 理事 会則渉外委員会委員長	日本がん看護学会	令和2年度	—	—	—
教授	狩野 太郎	日本がん看護学会 査読委員	日本がん看護学会	令和2年度	—	—	—
教授	宮崎有紀子	日本健康学会 評議員	日本健康学会	令和2年度	—	—	—
教授	高井ゆかり	編集委員会委員	日本老年看護学会	令和2年度	—	—	—
教授	高井ゆかり	代議員、教育委員会委員	日本運動器疼痛学会	令和2年度	—	—	—
教授	高井ゆかり	評議員	日本慢性疼痛学会	令和2年度	—	—	—
教授	高井ゆかり	代議員 国際活動推進委員会委員 和文誌編集委員会	日本看護科学学会	令和2年度	—	—	—
教授	廣瀬規代美	日本看護科学学会 代議員	日本看護科学学会	令和2年度	東京	学会員	—
教授	廣瀬規代美	日本がん看護学会 代議員	日本がん看護学会	令和2年度	東京	学会員	—
教授	廣瀬規代美	日本がん看護学会 査読委員	日本がん看護学会	令和2年度	東京	学会員	—
教授	廣瀬規代美	第14回日本慢性看護学会学術集会企画委員	日本慢性看護学会	令和2年度	群馬	学会員	—
教授	大澤真奈美	日本地域看護学会 代議員	日本地域看護学会	令和2年度	—	—	—
教授	大澤真奈美	日本地域看護学会誌 査読委員	日本地域看護学会	令和2年度	—	—	—
教授	大澤真奈美	日本公衆衛生看護学会誌 査読委員	日本公衆衛生看護学会	令和2年度	—	—	—
教授	大澤真奈美	日本ルーラルナース学会 査読委員	日本ルーラルナース学会	令和2年度	—	—	—
教授	大澤真奈美	千葉看護学会誌 専任査読者	千葉看護学会	令和2年度	—	—	—

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時（期間）	実施場所	対象者	参加人数
教授	大澤真奈美	日本産業衛生学会 代議員	日本産業衛生学会	令和2年度			
教授	飯田 苗恵	日本看護科学学会 代議員	日本看護科学学会	令和2年度	－	－	－
教授	飯田 苗恵	日本プライマリ・ケア連合学会 倫理委員会委員	日本プライマリ・ケア連合学会	令和2年度	－	－	－
教授	飯田 苗恵	日本難病看護学会 理事	日本難病看護学会	令和2年度	－	－	－
教授	飯田 苗恵	日本在宅看護学会 業務委員会委員	日本在宅看護学会	令和2年度	－	－	－
教授	飯田 苗恵	難病看護師WEB交流会 難病看護師の現状と課題	ファシリテーター	令和2年10月11日	Web	学会認定 難病看護師	約50名
教授	飯田 苗恵	学会認定：難病看護師 認定実行委員会委員	日本難病看護学会	令和2年11月17日～	－	－	－
教授	飯田 苗恵	学会認定：難病看護師 認定講習会	日本難病看護学会	令和3年2月13日	Web	看護師	約60名
准教授	清水 裕子	第40回 日本看護科学学会学術集会 シン ポジスト「国際学会オーラルプレゼンテー ションへの第一歩」	日本看護科学学会	令和2年12月13日	Web	看護職者	
准教授	服部 美香	日本看護教育学会 評議員	日本看護教育学会	令和2年度			
准教授	服部 美香	日本看護教育学会 編集委員	日本看護教育学会	令和2年度			
准教授	上山 真美	日本プライマリ・ケア連合学会 編集委員会委員	日本プライマリ・ケア連合学会	令和2年度	Web	－	－
准教授	上山 真美	日本老年泌尿器科学会 評議員	日本老年泌尿器科学会	令和2年度	－	－	－
准教授	上山 真美	日本看護リハビリテーション学会査読委員	日本看護リハビリテーション学会	令和2年度	－	－	－
准教授	上山 真美	日本創傷・オストミー・失禁管理学会査読委員	日本創傷・オストミー・失禁管理学会	令和2年度	－	－	－
准教授	上山 真美	高齢者排尿誘導ガイドライン作成チームメンバー	日本看護科学学会	令和2年度	Web	－	－
准教授	金谷 悦子	日本看護教育学会理事	日本看護教育学会	令和2年度	－	－	－
准教授	金谷 悦子	日本看護教育学会編集委員	日本看護教育学会	令和2年度	－	－	－
准教授	金谷 悦子	日本看護教育学会COIワーキンググルー プメンバー	日本看護教育学会	令和2年度	－	－	－
准教授	金谷 悦子	日本看護教育学会第3回定例会発表者	日本看護教育学会	令和2年度	Web	学会員	32名
准教授	金谷 悦子	日本看護教育学会第4回定例会発表者	日本看護教育学会	令和2年度	Web	学会員	27名
講師	高橋 裕子	日本看護教育学会 30周年記念大会 企 画委員（会計責任者）	日本看護教育学会	新型コロナウイルス の影響により、中止			
講師	高橋 裕子	日本看護教育学会 編集委員	日本看護教育学会	令和2年度	Web	看護職者	

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時（期間）	実施場所	対象者	参加人数
講師	高橋 裕子	群馬思春期研究会 理事	群馬思春期研究会	令和2年度	群馬	看護職者・医師 養護教諭	
講師	河内 直美	第24回群馬県看護学会	群馬県看護協会	令和2年度	群馬	看護職者、 看護学生	約450名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時（期間）	実施場所	対象者	参加人数
教授	小倉 敏裕	RPTE 査読	Radiological Physics and Technology 誌	令和2年度			
教授	小倉 敏裕	第1回CT Colonography Webinar企画打合せおよび開催	日本消化管CT技術学会	令和2年7月17日（金）	Web	大学教員、 放射線技師	300名
教授	小倉 敏裕	医用画像情報学会（MII）第188回大会理事会	医用画像情報学会	令和2年10月3日（土）	Web	大学教員、医師、 放射線技師	39名
教授	小倉 敏裕	看護理工学会評議委員会	看護理工学会	令和2年10月23日（金）	Web	大学教員、医師、 放射線技師、 看護師	30名
教授	小倉 敏裕	第2回CT Colonography Webinar企画打合せおよび開催	日本消化管CT技術学会	令和2年11月12日（木）	Web	大学教員、 放射線技師	500名
教授	小倉 敏裕	日本消化管CT技術学会編集委員会編集	日本消化管CT技術学会	令和2年12月19日（土）	Web	大学教員、 放射線技師	5名
教授	小倉 敏裕	日本消化管CT技術学会 令和2年度第1回理事会	日本消化管CT技術学会	令和3年2月22日（月）	Web	大学教員、医師、 放射線技師	10名
教授	小倉 敏裕	医用画像情報学会（MII）第189回大会理事会	医用画像情報学会	令和3年3月6日（土）	Web	大学教員、 放射線技師	39名
教授	小倉 敏裕	第3回CT Colonography Webinar企画打合せおよび開催	日本消化管CT技術学会	令和3年3月30日（火）	Web	大学教員、 放射線技師	450名
教授	佐々木浩二	群馬放射線腫瘍研究会 世話人	群馬放射線腫瘍研究会	令和2年度	—	—	—
教授	佐々木浩二	日本医学物理学会 代議員	日本医学物理学会	令和2年度	—	—	—
教授	佐々木浩二	日本医学物理学会 QA/QC委員会委員	日本医学物理学会	令和2年度	—	—	—
教授	佐々木浩二	日本放射線技術学会 プログラム委員会委員	日本放射線技術学会	令和2年度	—	—	—
教授	佐々木浩二	日本放射線技術学会 CyPos審査員	日本放射線技術学会	第77回日本放射線技術学会総会学術大会	—	—	—

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	佐々木浩二	Journal of Radiation Research Associate Editor	The Japan Radiation Research Society and Japanese Society for Radiation Oncology	令和2年度	—	—	—
教授	佐々木浩二	Journal of Radiation Research 査読者	The Japan Radiation Research Society and Japanese Society for Radiation Oncology	令和2年度	—	—	—
教授	佐々木浩二	Radiological Physics and Technology 査読者	Japanese Society of Radiological Technology and Japan Society of Medical Physics	令和2年度	—	—	—
教授	下瀬川正幸	医学物理士認定機構 試験委員会委員	一般財団法人医学物理士認定機構	令和2年度	東京	—	—
教授	下瀬川正幸	医療情報技師能力検定試験問題作成委員	一般社団法人日本医療情報学会	令和2年度	—	—	—
教授	原 孝光	世話人	福島県核医学研究会	令和2年度	—	—	—
准教授	五十嵐 博	令和2年度 群馬県がん検診エックス線線 撮影従事者講習会の運営	一般社団法人群馬県診療放射線技師会	令和2年10月13日、 11月10日	本学	診療放射線技師	延77名
准教授	五十嵐 博	日本放射線カウセンシング学会 副会長・ 理事・倫理委員長・編集委員・RC委員長・ 査読委員・相談員	日本放射線カウセンシング学会	令和2年度	—	診療放射線技師	—
准教授	五十嵐 博	群馬県診療放射線技師会 副会長・常務理事	一般社団法人群馬県診療放射線技師会	令和2年度	—	診療放射線技師	—
准教授	五十嵐 博	日本診療放射線技師会 代議員・医療被ば く安全管理委員・放射線被ばく相談員分科 会委員・査読委員	一般社団法人日本診療放射線技師会	令和2年度	—	診療放射線技師	—
准教授	五十嵐 博	日本医療マネジメント学会 群馬県支部幹事	日本医療マネジメント学会群馬県支部	令和2年度	—	県内医療従事者	—
准教授	五十嵐 博	大山人間科学研究会 理事長	大山人間科学研究会	令和2年度	—	心理学研究者等	—
准教授	佐藤 哲大	電子情報通信学会和文論文誌D査読委員	電子情報通信学会	令和2年度	本学	投稿論文	—
准教授	杉野 雅人	日本保健物理学会教員等協議会委員	日本保健物理学会	令和元年8月22日～	—	大学教員等	24名
准教授	大崎 洋充	日本核医学会PET核医学分科会PET撮像法 標準化ワーキンググループ委員	日本核医学会	令和2年度	東京	医師、放射線技師	約20人
准教授	大崎 洋充	標準・規格委員会ワーキンググループ	日本放射線技術学会	令和2年度	東京	放射線技師、 医療機器メーカー	約10名
准教授	大崎 洋充	関東支部 関東核医学研究会 幹事	日本放射線技術学会	令和2年度	東京	放射線技師	約20人
准教授	大崎 洋充	Annals of Nuclear Medicine 査読	日本核医学会	令和2年度	—	—	—
准教授	大崎 洋充	European Journal of Nuclear Medicine 査読	欧州核医学会	令和2年度	—	—	—
准教授	大崎 洋充	日本放射線技術学会誌査読	日本放射線技術学会	令和2年度	—	—	—

II-1. 学会活動

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
准教授	大崎 洋充	Radioisotopes誌査読	日本アイソトープ協会	令和2年度	—		
准教授	大崎 洋充	群馬県核医学研究会 世話人	群馬県核医学研究会	令和2年度	—		
准教授	大崎 洋充	臨床画像診断懇話会テクニカル分科会 プログラム委員(世話人兼務)	臨床画像診断懇話会テクニカル分科会	令和2年度	—		
准教授	大崎 洋充	クリニカルPETフォーラム世話人	クリニカルPETフォーラム	令和2年度	—		
准教授	大崎 洋充	関東脳核医学研究会世話人	関東脳核医学研究会	令和2年度	—		
准教授	林 則夫	日本放射線技術学会第76回総会学術大会 司会、座長、シンポジウム講師	日本放射線技術学会	令和2年5月23日 ～6月14日	Web	診療放射線技師, 研究者	
准教授	林 則夫	International Society for Magnetic Resonance (ISMRM)2020, シンポジウム講師	国際磁気共鳴医学会	令和2年8月8日 ～8月14日	Web	医師, 診療放射線 技師, MRI研究者	
准教授	林 則夫	第17回健科大CTMRI研究会 講師	群馬県立県民健康科学大学地域連 携センター	令和2年11月18日	Web	診療放射線技師	
准教授	林 則夫	日本放射線技術学会 撮影部会委員	日本放射線技術学会	令和2年度			
准教授	林 則夫	日本放射線技術学会 国際戦略委員会委員	日本放射線技術学会	令和2年度			
准教授	林 則夫	日本放射線技術学会 プログラム委員会委員	日本放射線技術学会	令和2年度			
准教授	林 則夫	日本放射線技術学会 代議員	日本放射線技術学会	令和2年度			
准教授	林 則夫	日本放射線技術学会 学術推進員	日本放射線技術学会	令和2年度			
准教授	林 則夫	日本放射線技術学会学術研究班「MRI検査用 金属探知機の特許評価に関する研究」班長	日本放射線技術学会	令和2年度			
准教授	林 則夫	医用画像情報学会 常務理事	医用画像情報学会	令和2年度			
准教授	林 則夫	研究会 幹事	群馬MR研究会	令和2年度			
准教授	林 則夫	研究会 代表世話人	群馬Gyro Users Meeting	令和2年度			
准教授	林 則夫	研究会 幹事	群馬CTMRI研究会	令和2年度			
准教授	林 則夫	研究会 幹事	群馬MR医学研究会	令和2年度			
准教授	林 則夫	Radiological Physics and Technology誌 査読者	日本放射線技術学会	令和2年度			
准教授	林 則夫	日本磁気共鳴医学会雑誌 査読者	日本磁気共鳴医学会	令和2年度			
准教授	林 則夫	Academic Radiology 査読者	Association of University Radiologists (AUR)	令和2年度			
准教授	林 則夫	日本放射線技術学会雑誌 査読者	日本放射線技術学会	令和2年度			
准教授	渡部 晴之	日本放射線技術学会雑誌 査読者	日本放射線技術学会	令和2年度			
准教授	渡部 晴之	Radiological Physics and Technology 査読者	日本放射線技術学会	令和2年度			

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
准教授	渡部 晴之	医用画像情報学会 理事	医用画像情報学会	令和2年度			
准教授	渡部 晴之	第76回日本放射線技術学会総会学術大会 座長	日本放射線技術学会	令和2年度	Web	大学教員、放射線技師、学生	
助教	川村 拓	日本放射線技術学会理事会	日本放射線技術学会	令和2年度	Web	大学教員、放射線技師	—
助教	川村 拓	日本診療放射線技師会査読者	日本診療放射線技師会	令和2年度	—	—	—
助教	川村 拓	日本診療放射線技師会 臨床実習指導教育委員	日本診療放射線技師会	令和2年度	Web	—	—
助教	川村 拓	日本診療放射線技師会 綱領見直し委員	日本診療放射線技師会	令和2年度	Web	—	—
助教	川村 拓	日本診療放射線技師会 臨床実習施設分科会委員	日本診療放射線技師会	令和2年度	Web	—	—
助教	川村 拓	日本放射線技術学会査読者	日本放射線技術学会	令和2年度	—	—	—
助教	米持 圭太	診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー(令和2年度) 運営	日本診療放射線技師会 群馬県診療放射線技師会	2020年12月6日(日)	群馬	診療放射線技師	11名
助教	米持 圭太	群馬県診療放射線技師会 常務理事・教育部長	群馬県診療放射線技師会	令和2年度	—	—	—
助教	米持 圭太	日本診療放射線技師会 教育委員	日本診療放射線技師会	令和2年度	—	—	—
助教	米持 圭太	群馬県核医学研究会 世話人	群馬県核医学研究会	令和2年度	—	—	—
助教	米持 圭太	臨床画像診断懇話会テクニカル分科会 プログラム委員(世話人兼務)	臨床画像診断懇話会テクニカル分科会	令和2年度	—	—	—
助教	米持 圭太	群馬県診療放射線技師会 地区幹事・学術部員	群馬県診療放射線技師会	令和2年度	—	—	—

一般住民・団体を対象とした講演・研修

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
講師	戸谷 幸佳	令和2年度公開講座 「感染症対策これだけは」 日常生活で気を付けたい基本的な感染症予防策	群馬県立県民健康科学大学	令和3年1月27日 ～令和3年2月28日	群馬県立 県民健康科学大学 (Youtube による配信)	住民	約200名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時（期間）	実施場所	対象者	参加人数
教授	瀬川 篤記	令和2年度公開講座 「感染症対策これだけは」 新型コロナウイルス、私は結局どうすればいいの？ ～すべきこと、しなくてもよいこと、して はいけないこと～	群馬県立県民健康科学大学	令和3年1月27日 ～令和3年2月28日	群馬県立県民 健康科学大学 (Youtubeによ る配信)	住民	約200名

保健医療専門職を対象とした講演・研修

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時（期間）	実施場所	対象者	参加人数
教授	行田 智子	養育支援訪問員の養成講座 家族の強みと課題の評価～支援計画の立て方～	HEALTHY FAMILY はままつ	令和2年11月28日	Web	看護職、 保育士等	10名
教授	山下 暢子	愛媛県看護教員継続教育研修会Ⅲ 「看護学 実習指導上の課題を解決するーより効果的 な実習指導に向けてー」	愛媛県	令和2年11月8日	Web	看護学教員	約30名
教授	狩野 太郎	認知症サポーターステップアップ研修講師 向けWeb講座	茨城県保健福祉部	令和3年2月16日	Web	看護職・介護職	180名
教授	宮崎有紀子	看護研究データの分析～量的データの分 析・基礎編～	群馬県看護協会	令和2年8月7日	群馬県看護協会	看護職	約30名
教授	高井ゆかり	シンポジウム 認知症の緩和ケアを考える	認知症の緩和ケアに関する研究会	令和2年11月23日	Web	看護師等	約1500 人
教授	大澤真奈美	令和2年度新任保健師研修会 講師	群馬県医師課看護係	令和3年3月	Web	県内新任保健師	約40名
教授	飯田 苗恵	令和2年度訪問看護研修（指導者編） [指導方法と評価] 講師	群馬県看護協会	令和2年11月25日	群馬県看護教育 センター	訪問看護師	約15名
准教授	清水 裕子	ファシリテーションの技法を学ぶ	群馬県看護協会	令和2年9月1日	群馬県看護教育 センター	看護職者	約50名
准教授	清水 裕子	令和2年度新人看護職員研修事業 教育担 当者研修 [教育に関する基礎知識]	群馬県看護協会	令和2年11月4日	群馬県看護教育 センター	看護職者	約50名
准教授	清水 裕子	令和2年度訪問看護師人材養成研修会「学 ぼう！訪問看護研究会の企画・実施・評価」	群馬県健康福祉部健康福祉課医 療・介護連携推進係	令和3年2月20日	群馬県庁	訪問看護師	10名
准教授	上山 真美	看護研究に関する研修	公立館林厚生病院	令和2年6月～3月	公立館林厚生病院	看護師	約20名
助教	佐々木馨子	令和2年度訪問看護師養成研修 [ステップⅠ]	群馬県看護協会	令和2年9月9日 令和2年9月24日	群馬県看護協会	看護職	

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時(期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	小倉 敏裕	第1回CT Colonography Webinar司会	日本消化管CT技術学会	令和2年7月17日(金)	Web	大学教員、 放射線技師	300名
教授	小倉 敏裕	第2回CT Colonography Webinar司会	日本消化管CT技術学会	令和2年11月12日(木)	Web	大学教員、 放射線技師	500名
教授	小倉 敏裕	第3回CT Colonography Webinar司会	日本消化管CT技術学会	令和3年3月30日(火)	Web	大学教員、 放射線技師	450名
教授	小倉 敏裕	第3回CT Colonography Webinar講演 「CTCこれからの画像表示システム」	日本消化管CT技術学会	令和3年3月30日(火)	Web	大学教員、 放射線技師	450名
教授	佐々木浩二	放射線治療 医学物理講義 講師	磐田市立総合病院	令和2年度	磐田市立総合病院	医学物理士、 診療放射線技師、 医師	—
教授	下瀬川正幸	放射線医学総合研究所第16回医学物理コー ス講師「放射線診断物理学」	国立研究開発法人量子科学技術研 究開発機構放射線医学総合研究所	令和2年7月14日	放射線医学総合研究 所(Web開催)	医学物理士	30名
教授	下瀬川正幸	第19回東京大学ホームカミング大学経 営・政策コース同窓会主催講演会「コロナ 禍における学部運営事例報告」	東京大学教育学研究科大学経営・ 政策コース同窓会	令和2年10月17日	東京大学 (Web開催)	大学教職員、文 部科学省職員等	約100名
教授	下瀬川正幸	FD研修会講師「群馬県立県民健康科学大学の 法人化事例ー法人化のメリットとデメリットー」	茨城県立医療大学	令和2年12月24日	茨城県立医療大学 (Web開催)	大学教職員	約150名
准教授	五十嵐 博	傾聴訓練指導	日本放射線カウンセリング学会	令和2年9月15日、9月26 日、令和3年1月30日	Web	診療放射線技師	延30名
准教授	五十嵐 博	医療安全研修会「うっかりミスはなぜ起きる」	公益財団法人群馬県健康づくり財団	2021年3月18日(木)	Web	財団職員	約60名
准教授	大崎 洋充	合同シンポジウム2 SUVの定量性と臨床 利用～SPECTとPETにて～ PET 診療に役立 つ定量化技術と最新動向、	第60回日本核医学会学術総会	令和2年11月13日	神戸国際会議場	医師・放射線技師	約200名
准教授	大崎 洋充	(ランチョンセミナー)次世代デジタルPET-CT 装置「Cartesion Prime」の技術的インパクト	第60回日本核医学会学術総会	令和2年11月13日	神戸国際会議場	医師・放射線技師	約300名
准教授	大崎 洋充	がんプロ講義「放射線診断学・核医学特論」	東京医科歯科大学	令和2年9月17日	東京医科歯科大学 (Web開催)	大学院生・職員	約10人
助教	川村 拓	MRIを広く知る	株式会社千代田テクノ	令和2年6月23日	千代田テクノ本社 会議室およびWeb	医師、診療放射 線技師、会社員	約40人
助教	米持 圭太	診療放射線技師のためのフレッシュャーズセ ミナー(令和2年度):エチケット・マナー講座	日本診療放射線技師会 群馬県診療放射線技師会	2020年12月6日(日)	群馬	診療放射線技師	11名
助教	米持 圭太	診療放射線技師のためのフレッシュャーズセ ミナー(令和2年度):医療コミュニケーション	日本診療放射線技師会 群馬県診療放射線技師会	2020年12月6日(日)	群馬	診療放射線技師	11名

行政組織での活動等

【看護学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時（期間）	実施場所	対象者	参加人数
教授 講師 助教	行田 智子 橋爪由紀子 林 はるみ 生方 尚絵	「子育てママのこころの相談」個別相談	利根沼田保健福祉事務所	令和1年4月 ～令和2年3月	利根沼田保健福祉 事務所	住民	－
教授	横山 京子	群馬県健康福祉部医学系研究等に係る倫理 委員会委員	群馬県看護協会	令和2年度	紙面会議	－	－
教授	狩野 太郎	群馬県・群馬大学共催市民講座・企画ワー キング 委員	群馬県／群馬県診療連携拠点病院 連絡協議会	令和2年度	群馬大学	－	－
教授	宮崎有紀子	榛東村健康づくり計画作成委員会 委員	榛東村	令和2年度	榛東村保健相談 センター	－	－
教授	高井ゆかり	群馬県高齢介護施設策推進協議会委員	群馬県高齢介護課	令和2年度	－	－	－
教授	大澤真奈美	群馬県アルコール健康障害対策連絡協議会 委員	群馬県健康福祉部障害政策課	令和2年度	群馬県庁	－	－
教授	大澤真奈美	県民健康・栄養調査企画解析検討委員会	群馬県健康福祉部保健予防課	令和2年度	群馬県庁	－	－
教授	大澤真奈美	前橋市介護保険認定審査会 委員	前橋市介護保険課	令和2年度	前橋市役所	－	－
教授	大澤真奈美	前橋市自立支援給付認定審査会 委員	前橋市障害福祉課	令和2年度	前橋市保健所	－	－
教授	大澤真奈美	前橋市食育推進会議 委員長	前橋市健康増進課	令和2年度	前橋市保健センタ－	－	－
教授	大澤真奈美	前橋市環境審議会 委員	前橋市環境政策課	令和2年度	前橋市役所	－	－
教授	大澤真奈美	第2期榛東村総合戦略有識者会議 委員	榛東村企画財政課	令和2年度	榛東村役場	－	－
教授	大澤真奈美	群馬県開発審査会 委員	群馬県県土整備部建築課	令和2年度	群馬県庁	－	－
教授	大澤真奈美	群馬県建築審査会 委員	群馬県県土整備部建築課	令和2年度	群馬県庁	－	－
教授	大澤真奈美	群馬県廃棄物処理施設等専門委員会 委員	群馬県廃棄物・リサイクル課	令和2年度	群馬県庁	－	－
准教授	飯田 苗恵	前橋市特別養護老人ホーム等設置法人選定 委員会副委員長	前橋市	令和2年度	前橋市役所 書面会議	－	－
准教授	上山 真美	認知症初期集中支援チーム員	前橋市	令和2年度	地域包括支援セン ター西部・Web	－	－

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ	主催	実施日時（期間）	実施場所	対象者	参加人数
教授	佐々木浩二	放射線・陽子線治療品質管理委員会 委員	静岡県立静岡がんセンター	令和2年度	－	－	－
教授	佐々木浩二	放射線治療品質管理委員会 委員	磐田市立総合病院（静岡県）	令和2年度	－	－	－
教授	瀬川 篤記	診療（病理診断）の支援	桐生厚生総合病院	令和2年4月 ～令和3年3月	桐生厚生総合病院	患者様	延約300例

職位	氏 名	活動・テーマ	主 催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	原 孝光	量子科学技術研究開発機構 量子ビーム科学 研究部門 高崎量子応用研究所 協力研究員	量子科学技術研究開発機構 量子 ビーム科学研究部門 高崎量子応用 研究所	令和2年度	量子科学技術研究 開発機構 量子 ビーム科学研究部 門 高崎量子応用 研究所		
准教授	杉野 雅人	環境放射線測定に関する協力研究員	国立研究開発法人 量子科学技術研 究機構 福島再生支援研究部	令和2年4月～ 令和3年3月	量子科学技術研究 機構	—	—
准教授	杉野 雅人	前橋市放射線管理アドバイザー	前橋市環境部環境森林課	令和2年4月～ 令和3年3月	—	—	—
准教授	杉野 雅人	みどり市放射線対策アドバイザー	みどり市市民部生活環境課	令和2年4月～ 令和3年3月	—	—	—
准教授	杉野 雅人	川場村放射線対策アドバイザー	川場村役場むらづくり振興課	令和2年4月～ 令和3年3月	—	—	—
助教	川村 拓	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 協力研究員	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所	令和2年度	—	—	—
助教	川村 拓	国立研究開発法人 理化学研究所 客員研究員	国立研究開発法人 理化学研究所	令和2年度	—	—	—

任意団体での活動

【看護学部】

職位	氏 名	活動・テーマ	主 催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	巴山 玉蓮	認定看護管理者運営委員会	群馬県看護協会	令和2年4月～ 令和3年3月	群馬県看護協会研 修センター	—	—
教授	行田 智子	看護・助産教育支援フォーラム	倫理委員	令和2年度	—	—	—
教授	横山 京子	群馬県看護協会倫理委員会	群馬県看護協会	令和2年度	—	—	—
教授	狩野 太郎	群馬がん看護研究会 理事・地域貢献委員 会委員長	群馬がん看護研究会	令和2年度			
教授	狩野 太郎	群馬県がん患者団体連絡協議会・運営委員	群馬県がん患者団体連絡協議会	令和2年度	群馬県 健康づくり財団		
教授	狩野 太郎	リレーフォーライフジャパン2020ぐんま・ 副実行委員長	日本対がん協会、リレーフォーラ イフジャパンぐんま実行委員会	令和2年度	群馬県 健康づくり財団		
教授	廣瀬規代美	群馬がん看護研究会 理事・教育委員会委員長	群馬がん看護研究会	令和2年度	群馬大学他	会員	
教授 講師	大澤真奈美 小西 美里	群馬県精神科訪問看護交流会	県内精神科訪問看護師	令和2年度	県立精神医療セン ター等及び本学	精神科訪問看護 師等	各15名 程度
教授	飯田 苗恵	日本ALS協会群馬支部 医療顧問	日本ALS協会群馬支部	令和2年度	—	—	—

職位	氏 名	活動・テーマ	主 催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
准教授	鶴生川恵美子	NPO 教育支援北関東 理事 (中学生の学修支援他)	NPO 教育支援北関東	令和 2 年度	地域公民館	中学生	約10名
准教授	清水 裕子	群馬がん看護研究会 理事兼教育委員	群馬がん看護研究会	令和 2 年度			

【診療放射線学部】

職位	氏 名	活動・テーマ	主 催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	佐々木浩二	放射線治療品質管理委員会 外部委員	慈泉会 相澤病院	令和 2 年度	—	—	—
教授	瀬川 篤記	診療 (病理診断) の支援	医療法人社団 美心会 黒沢病院	令和 2 年 4 月 ～令和 3 年 3 月	黒沢病院 (高崎)	患者様	延約100例
准教授	五十嵐 博	群馬県環境アドバイザー	群馬県環境アドバイザー協会	令和 2 年度	—	—	—
准教授	林 則夫	桃の木リバーを愛する会：花壇苗植え	桃の木リバーを愛する会	2020年5月27日 (水)	桃の木川		
准教授	林 則夫	桃の木リバーを愛する会：花壇苗植え	桃の木リバーを愛する会	2020年11月18日 (水)	桃の木川		
准教授	大崎 洋充	日本核医学専門技師認定機構試験委員	日本核医学専門技師認定機構	令和 2 年度	—	—	—

他教育機関非常勤講師

【看護学部】

職位	氏 名	活動・テーマ (科目名等)	主 催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	行田 智子	妊娠期の助産診断技術学	高崎健康福祉大学大学院	令和 2 年 4 月 1 日～ 9月27日	Web	助産専攻院生	4名
教授	横山 京子	看護学特別セミナー	群馬大学保健学研究科	令和 2 年 6 月 27 日	Web	博士前期課程院生	9 名
教授	石川 良樹	生化学	高崎健康福祉大学保健医療学部	2020年5月14日～ 7月2日	Web	看護学生 理学療法学生	約150名
教授	石川 良樹	人体の構造と機能 I (生化学・栄養学)	渋川看護専門学校	2020年4月13～ 5月25日	渋川看護専門学校 & Web	専門学校生	40名
教授	石川 良樹	薬理学	群馬大学医学部	2020年9月4日	Web	医学生	約110名
教授	石川 良樹	医薬品とその作用	育英短期大学	2020年9月24～ 2021年1月14日	育英短期大学 & Web	短大生	18名
教授	山下 暢子	看護教育学	新潟県立看護大学	令和 2 年 12 月 22 日～ 令和 3 年 1 月 26 日	Web	博士前期課程 院生	8 名
教授	狩野 太郎	研究の基礎 文献検索入門、研究方法論 (1) 調査・実験研究)	本庄児玉看護専門学校	令和 2 年 12 月 14 日	本庄児玉看護専門 学校	看護学生	40名
教授	宮崎有紀子	保健統計	群馬パース大学保健科学部看護学専攻	令和 2 年 4 月～ 令和 2 年 7 月	群馬パース大学 ・ Web	看護学生	約30名

職位	氏 名	活動・テーマ (科目名等)	主 催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	宮崎有紀子	疫学	高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科	令和2年9月～ 令和3年1月	Web	看護学生	約110名
教授	宮崎有紀子	公衆衛生学	群馬大学共同教育学部	令和2年10月～ 令和3年1月	Web	教育学部学生	23名
教授	宮崎有紀子	ウイメンズヘルス特論	群馬大学大学院保健学研究科	令和2年12月2日	Web	大学院生	約10名
教授	高井ゆかり	看護学研究概論	群馬大学大学院	令和2年6月24日、 7月1日	Web	博士後期課程 学生	約5人
教授	高井ゆかり	講義 認知症の人のケアマネジメント	公益社団法人日本看護協会 看護 研修学校 認定看護師教育課程	令和2年9月15日	Web	認知症看護認定 看護師課程生	20人
教授	廣瀬規代美	成人看護学各論Ⅱ「喉頭がん」	茨川看護専門学校	令和2年11月6日	茨川看護専門学校	看護学生	40名
教授	大澤真奈美	地域看護方法「精神保健福祉対策と保健師 活動」「難病対策と保健師活動」	千葉大学看護学部	令和2年12月3日	千葉大学看護学部	看護学生	約90名
教授	大澤真奈美	産業保健	足利大学看護学部	令和2年9月～12月	足利大学看護学部	看護学生	約80名
教授 講師 講師 講師	大澤真奈美 鈴木 美雪 坪井 りえ 塩ノ谷朱美	保健環境論	上尾中央看護専門学校	令和2年9月～ 令和2年1月	上尾中央看護専門 学校	看護学生	約80名
准教授	鶴生川恵美子	医療英語	前橋東看護学校	平成2年6月11日～ 令和2年9月24日	前橋東看護学校	看護学生	37名
准教授	鶴生川恵美子	英語文学	育英短期大学	令和2年11月27日～ 令和3年1月29日	育英短期大学 (Web)	大学生	約20名
准教授	鶴生川恵美子	世界の言語と文化	育英短期大学	令和2年9月24日～ 令和3年1月29日	育英短期大学 (Web)	大学生	約30名
准教授	服部 美香	看護研究	深谷大里看護専門学校	令和2年5月	深谷大里看護 専門学校	看護学生	37名
准教授	服部 美香	観察	群馬県消防学校 消防職員専科教 育第26期救急科	令和3年2月	群馬県消防学校	消防士	77名
講師	佐々木馨子	成人看護学各論Ⅱ「神経難病」	茨川看護専門学校	令和2年12月11日	茨川看護専門学校	看護学生	40名

【診療放射線学部】

職位	氏名	活動・テーマ (科目名等)	主催	実施日時 (期間)	実施場所	対象者	参加人数
教授	青木 武生	解剖生理学 その一部	館林高等看護学院	令和2年6月5日～ 7月31日	館林高等看護学院	看護学生	約60名
教授	青木 武生	病理学総論	館林高等看護学院	令和2年9月27日～ 11月8日	館林高等看護学院	看護学生	約60名
教授	小倉 敏裕	「放射線検査」	前橋東看護学校	令和2年6月11日～ 令和2年7月9日	前橋東看護学校	看護学生	50名
教授	下瀬川正幸	放射線学シミュレータ特論、放射線画像解析特論Ⅱ	群馬大学大学院医学系研究科	令和2年度	—	—	—
教授	下瀬川正幸	学校評議員	高崎健康福祉大学高崎高等学校	令和2年度	—	—	—
教授	瀬川 篤記	臨床実習	群馬大学	令和2年6月～ 令和3年3月	群馬大学医学部 附属病院	医学科学学生および 初期研修医	延約30名
教授	瀬川 篤記	病理学	前橋東看護学校	令和2年9月～ 令和2年10月	前橋東看護学校	看護学生	約40名
教授	原 孝光	福島県立医科大学 特任教授	福島県立医科大学	令和2年4月～ 令和3年3月	福島県立医科大学		
教授	原 孝光	群馬大学腫瘍放射線学講座協力研究員	群馬大学	令和2年4月～ 令和3年3月	群馬大学		
教授	原 孝光	放射線管理計測学特論	群馬大学大学院医学系研究科	令和2年4月～ 令和3年3月	群馬大学		
教授	原 孝光	医療基礎生物学	群馬パース大学	令和2年4月～ 令和2年8月	群馬パース大学		
准教授	五十嵐 博	医療人間工学	館林高等看護学院	令和2年6月8日～ 7月27日	館林高等看護学院	看護学生	約40名
客員教員	佐藤 哲大	修士論文研究指導	奈良先端科学技術大学院大学	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	奈良先端科学技術 大学院大学	情報科学研究科 博士前期課程学生	1名
准教授	杉野 雅人	放射線安全管理特論	群馬大学大学院医学系研究科	令和2年3月1日～ 令和3年3月	—	—	—
准教授	大崎 洋充	放射性医薬品学、核医学機器工学	東京電子専門学校	令和2年4月13日～ 令和2年7月13日	東京電子専門学校	診療放射線学科生	約70名
准教授	大崎 洋充	画像標準化に関する研究	東京医科歯科大学	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	東京医科歯科大学	医学部生・研究生	約10名
准教授	林 則夫	金沢大学医薬保健研究域医学系協力研究員	金沢大学	令和2年度			
准教授	林 則夫	非常勤講師：放射線画像技術学特論	群馬大学大学院医学系研究科	令和2年度			
助教	川村 拓	医用画像情報学実験	東京都立大学	令和2年4月1日～ 令和2年9月30日	東京都立大学ある いはWeb	放射線学生	約40名
助教	川村 拓	東京都立大学客員研究員	東京都立大学	令和2年度	東京都立大学	—	—

群馬県立県民健康科学大学地域連携センター設置運営規程

(設置)

第1条 この規程は、群馬県公立大学法人組織規程第7条の規定に基づき、群馬県立県民健康科学大学地域連携センター（以下「センター」という。）の設置及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、県立の医療系大学として、大学が所有する知的財産や研究成果等を、県民をはじめ、広く教育機関、医療機関、医療従事者、行政等に対し還元することにより、県民の保健、医療及び福祉の向上に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次のことに係る事業を実施するものとする。

- (1) 看護学教員養成課程に関すること
- (2) 看護師特定行為研修課程に関すること
- (3) 県立病院・県内病院等との連携に関すること
- (4) 看護職に対する研究支援に関すること
- (5) 放射線教育・研修に関すること
- (6) 放射線測定等に関すること
- (7) 教育普及に関すること
- (8) 地域との連携推進に関すること
- (9) 県と連携した健康福祉政策に関すること
- (10) 健康寿命延伸プロジェクトに関すること
- (11) その他前条の目的を達成するために必要なこと

(組織)

第4条 センターには、センター長及び副センター長を置く。

- 2 前条に定める事業を推進し、目的を達成するため、地域連携センター運営会議（以下「センター運営会議」という。）を設置する。
- 3 センター運営会議に、前条の事業を実施するため、地域連携センター運営委員会（以下「センター運営委員会」という。）を置く。
- 4 センター運営会議及びセンター運営委員会は、センター長が主宰する。
- 5 副センター長は、センター長を補佐する。

(協議及び報告)

第5条 センター長は、センター事業の運営方針や進捗状況等について、大学運営会議に協議及び報告するものとする。

(事務)

第6条 センター運営会議及び運営委員会の事務は、事務局教務係で処理する。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、センターの設置運営に関し必要な事項については、学長が別に定めるものとする。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

群馬県立県民健康科学大学地域連携センター運営会議及び 地域連携センター運営委員会設置運営細則

(趣旨)

第1条 この細則は、群馬県立県民健康科学大学地域連携センター設置運営規程第7条の規定に基づき、地域連携センター運営会議（以下「センター運営会議」という。）及び地域連携センター運営委員会（以下「センター運営委員会」という。）の組織及び運営等について必要な事項を定めるものとする。

(センター運営会議の組織)

第2条 センター運営会議は、次の構成員によって組織する。

- (1) 地域連携センター長（以下「センター長」という。）及び副センター長
- (2) 学部長
- (3) センター事業の担当者から互選により選ばれた責任者
- (4) 事務局長
- (5) 学外有識者
- (6) 県職員の内からセンター長が必要と認める者
- (7) その他センター長が必要と認める者

(センター運営会議委員の任期)

第3条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター運営会議の運営)

第4条 センター運営会議は、センター長が招集し、その議長となる。

- 2 センター長が出席できないときは、センター長が指名する者がその職務を代理する。
- 3 センター運営会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 4 センター運営会議の議事は、出席委員の過半数によりこれを決定し、可否同数のときは議長が決定する。

(センター運営会議の審議事項)

第5条 センター運営会議は、次の事項について審議する。

- (1) 地域連携センターの運営方針に関する事項
- (2) 地域連携センターの事業計画の策定及び評価に関する事項
- (3) 地域連携センターに係る規程の制定又は改廃に関する事項
- (4) その他センター長が必要と認める事項

(センター運営委員会の組織)

第6条 センター運営委員会は、次の構成員によって組織する。

- (1) センター長及び副センター長
- (2) 学部長
- (3) センター事業の担当者から互選により選ばれた責任者
- (4) その他センター長が必要と認める者

(センター運営委員会委員の任期)

第7条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

Ⅲ 関連規程

(センター運営委員会の運営)

第8条 センター運営委員会は、センター長が招集し、その議長となる。

- 2 センター長が出席できないときは、センター長が指名する者がその職務を代理する。
- 3 センター運営委員会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 4 センター運営委員会の議事は、出席委員の過半数によりこれを決定し、可否同数のときは議長が決定する。

(センター運営委員会の審議事項)

第9条 センター運営委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 地域連携センターの運営及び事業の実施に関する事項
- (2) 地域連携センターの事業計画及び評価の検討に関する事項
- (3) 地域連携センターに係る規程の制定又は改廃の検討に関する事項
- (4) その他センター長が必要と認める事項

(委員以外の者の出席)

第10条 センター運営会議及びセンター運営委員会の議長は、会議の運営上必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

令和 2 年度地域貢献活動報告書

発行者 群馬県立県民健康科学大学
〒371-0052 群馬県前橋市上沖町323-1
TEL 027-235-1211
FAX 027-235-2501
印刷所 朝日印刷工業株式会社



GUNMA PREFECTURAL COLLEGE OF HEALTH SCIENCES

